

なくそう貧困。命の水を！

アジアネット

JAFS

NEWS & REPORTS 2019年夏

138

特集

ネパール復興へ新プロジェクト





since 1979
公益社団法人アジア協会アジア友の会
Japan Asian Association & Asian Friendship Society

JAFS



● 主な目次 ●

「巻頭言」 令和時代の幕開けに	02
特集=ネパール震災復興へ新プロジェクト	
川の水を山越えて村へ	04~06
「自分に自信を」ワークショップ	06・07
インド、コスモニケタンの先生来日	08・09
HIVと闘う—南インド支援地訪問記	10・11
バンガロール職業訓練学校が開校	12
サイクル・エイド、カンボジアへ373台	13
フィリピン、植林からエコツアーへ	14・15
JAFS40周年を前に③ 子ども支援	16・17
井戸寄贈報告	18・19
2018年度活動報告／2019年度の事業	
貧困対策／環境／水／子ども／国際交流／ 罹災者支援／サイクルエイド／国内での普 及啓発の各事業	20~28
2019年度 社員総会報告	29
「JAFS プラザ」=国内の活動	30・31
チャリティでアジアの音楽と食の融合 他	
新入会員紹介・領収報告	32・33
「新・The 社会貢献」法人会員紹介	34
「環境コラム」	35

アジア協会アジア友の会とは

アジア18カ国に井戸を贈る国際協力団体（NGO）です。1979年に大阪で設立。誰もが生まれてきて良かったと思える社会を目指し、2019年3月現在、井戸建設（累計2033基）や植林（累計255万本）、子ども教育支援を中心に活動しています。全国都道府県認可の社団法人取得第1号団体です。2012年4月1日からは、内閣総理大臣の認定を受け、公益社団法人になりました。

海外との交流・協力活動は、インド、インドネシア、バングラデシュ、タイ、マレーシア、フィリピン、スリランカ、ネパール、韓国、カンボジア、シンガポール、ミャンマー、ラオス、中国、ベトナム、モンゴル、パキスタン、アフガニスタン、さらに西アフリカのブルキナファソにも広がり、友情のネットワークが形成されています。

日本国内でも、各地でチャリティープログラム、自然環境プログラムなどを行っています。

※ホームページ <https://jafs.or.jp>

本会へのご寄付は、寄付金控除の対象です

JAFSは内閣府より公益社団法人としての認定を受けています。JAFSへの寄付金や会費（社員会費は除く）は、申告によって、所得税、法人税、相続税について税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。

確定申告の際、税額控除、所得控除のいずれか有利な方を選択できます。本会発行の領収書を添付して申告してください。法人税は損金の額に算入することができます。相続税は最寄りの税務署などにお問い合わせください。

巻頭言

令和時代の幕開けに



山下 泰之
アジア協会アジア友の会 監事

皆さん、改元をまたいでのゴールデンウィークはいかがお過ごしでしたでしょうか。私は平成から令和へ歴史の変わり目に立会い、改元にまつわるニュースや特集を家で新聞やテレビで存分に満喫しました。譲位と即位の国事行事、憲政史上初めての皇位継承の歴史や皇室典範の解説、平成の回顧、退位に寄せた天皇陛下の85年の歩みや皇室の活動の振り返り、さらに改元にまつわる経済効果や商魂たくましい改元商戦まで「平成最後の○○」「令和まで○○日」「令和最初の○○」などなど冠をつけた言葉が至るところに溢れた中、10日間を過ごしました。令和最初のアジアネット巻頭言にあたり、触れないわけにはいかないでしょう。

退位の礼で天皇陛下は最後の言葉として、国民への感謝と平和への祈りを残され、新天皇は即位の言葉で常に国民を思い寄り添いと誓い、平和への希望を述べられました。また各界の著名人や識者から、お祝いの言葉や新時代への決意や期待のコメントが寄せられ報道されました。社会に流れる時間は区切りなしに連続して流れているのに、平成から令和に変わる一つの時代が始まるという期待を誰も止められないでしょう。それほど言葉には、人々に感動を与え、世界に働きかけ、社会を動かす力があるのです。人に伝える言葉が人の心を動かし、励ましの言葉で厳しい環境の中でも耐えられる。JAFSの一員として、もつと強力で改めて感じた次第です。

ところで、新天皇のこれまでの活動の一つとして国連の水会議の講演が紹介されていました。学生時代に円札の顔、渋沢栄一です。経済界、特に金融界に携わった人にとっては言わずもがな近代日本経済の土台を作った人です。その経営哲学である「論語と算盤」は利益至上主義と一線を画した、道徳と企業の両立を求めたものです。そして教育や社会事業、民間外交にも力を注がれたと言われています。まさに現在に通じる考えとして令和の顔に相応しい人物でしょう。また、世界を見渡せば貧困、環境問題などの解決を目指す国連で採択された持続可能な開発目標SDGs、企業の社会的責任CSR、資産運用市場では環境、社会、ガバナンスに力を注ぐ企業に投資を推奨するESG投資など、世界の潮流は私たちJAFSの活動に力となつて向かっていることは心強い限りです。この流れをしっかりと受け止めて邁進したいものです。

令和の幕開けに、永遠を今に見む。次なる一步を踏み出したいものです。

●プロフィール●
やました・やすゆき 1956年、大阪市福島区生まれ。途上国の農業支援活動を将来に描き、鳥取大学農学部に入學、79年卒業したが、かなわず、民間企業に就職。現在、東邦金属株式会社常勤監査役。2017年よりJAFS監事。

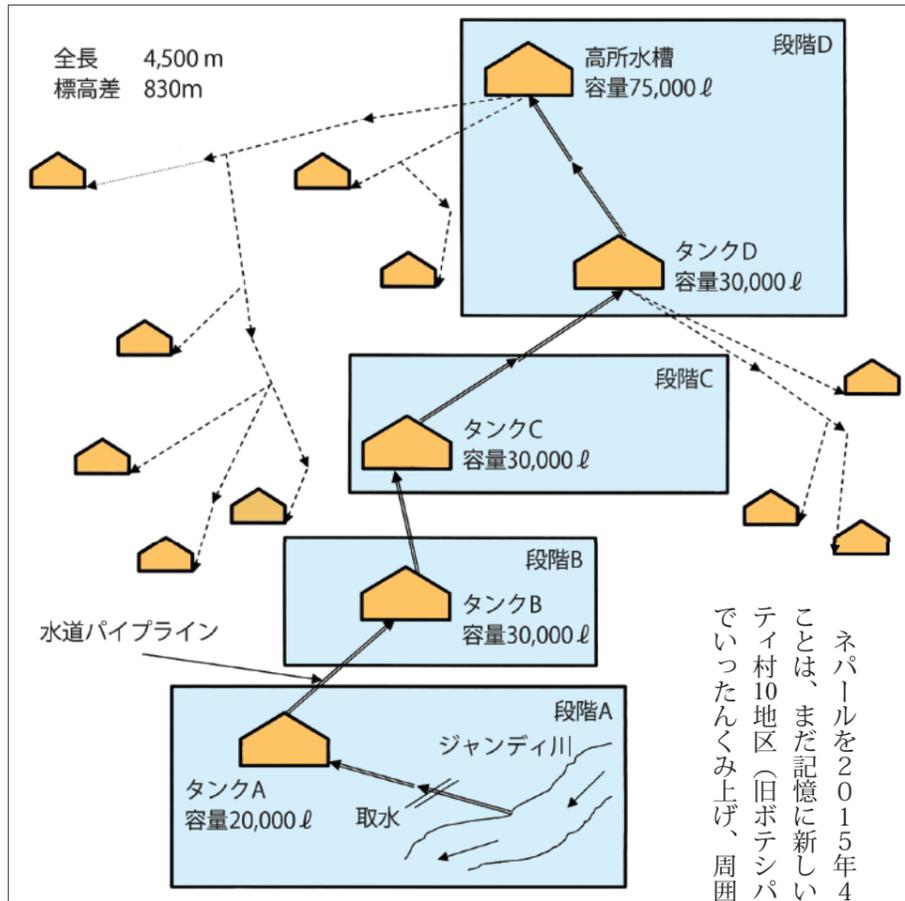
一、地球の自然環境を大切に守ります。
一、生活の無駄を省き、地球資源を大切にします。
一、これらの奉仕活動を通して、自分と他人の生命の価値を高めます。
以上

一、アジアと世界の人々の幸せに奉仕します。
一、より人間らしい地球社会の創造をめざします。
一、地球の自然環境を大切に守ります。
一、アジアと世界の人々の幸せに奉仕します。

JAFS会員綱領
私たちは、世界の平和と人間の基本的人権を守るために人々との「友情と信頼」に基づく「理解と協力と連帯」の輪をアジアと世界に広げます。
かかる目的をもって私たちJAFS会員は以下のことに努めます。

川の水を山越えで村へ

揚水システムの仕組み



ネパールで震災復興新プロジェクト

ネパールを2015年4月25日に大地震が襲い、人口の約3割にあたる800万人が被災（国連発表）したことは、まだ記憶に新しいと思います。JAFSは、大きな被害を受けたシンドウパルチョーク郡インドラワティ村10地区（旧ボテシパ村）で今春、大事なライフラン線である水を、川から標高差800m以上の山頂までいったんくみ上げ、周囲の村落に分配するという大規模プロジェクトにとりかかりました。

800メートルの標高差を揚水

村では地震によって水脈が動き、得られる水量が年々減っています。JAFSは、以前と同じ程度への復興ではなく、継続的に暮らせるより良い地域づくりを目指しています。しかし、水がないことが致命的です。ただ一つ頼れるのは、村のすそ野を流れているジャンディ川です。その川の水を標高差800m以上の山頂まで揚水して集落に分配しようというのが、このプロジェクトです。上の図のような大規模システムを導入します。

具体的な事業名は「シンドウパルチョーク郡における安定的な農業地域を目標とした水インフラ設置と農業生産向上の基盤づくり」。資金供与額は494万2261円です。幸い、平成30（2018）年度日本NGO連携無償資金協力（ODA資金供与）事業として外務省に認められました。

3月1日に在ネパール日本大使館で西郷正道大使との署名式が済み、同日20日から正式に事業が始まりました。実施のためにJAFSスタッフの中川寛子が現地へ赴任しています。

揚水システムの管理、水インフラが

整ったあと、持続可能な地域を目指して農業の基盤をつくるため、村内から人選して研修を行い、リーダーを育てます。最終的には、公的資金ではなく

JAFSの支援者から資金を募り、誰もが生活に必要な水を得られる水場を各集落につくることを目指します。「水」「農業」そしてそれらの管理シ

ステムに日本の良いところを導入し、半永久的に使えるシステムにしたいと考えています。

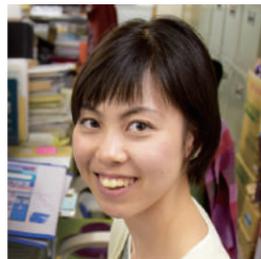
具体的な支援体制や、皆さまにご協力

力いただきたい内容がまとまりましたら、改めてお知らせします。ぜひこのプロジェクトにご参加ください。

（JAFSスタッフ 熱田典子）

夜の山中に家々の灯 自然の村をサポート

JAFSスタッフ 中川寛子



私はシンドウパルチョーク郡の新たな事業の担当者として、4月20日からネパールに滞在しています。大学生の頃、途上国の貧困問題にと

ても関心があり、活動していた学生国際協力団体STEPとしてJAFSのネパールへの井戸建設募金をしていました。また、前職ではフェアトレード商品の買い付けや現地とのやりとりでネパールと関わりました。ずっとご縁のある国だと改めて感じます。

今回の事業に携わることには、私にとってとても挑戦的なことです。プロジェクトが成功に向かうように努めたいと思います。また、JAFSとして今後もネパールでの支援活動を継続できるように、現地と日本をつなぐ役として、現地の状況を皆さまにもお伝えできたらと思います。

JAFS支援地であるシンドウパルチョーク郡では、揚水システムの建設が始まりました。この時期のネパールは暑く、日中は30度以上になります。郡内ボテシパ村から募られた何人かの村人は日中を避け、朝と夕方に作業を



揚水システムの取水場所を決めるエンジニアと村人たち＝ネパール、シンドウパルチョーク郡インドラワティ村10地区



2019年夏 アジアネット138号

行っています。村では雨季を前に植えられたトウモロコシの芽が少しずつ出てきました。山の上のため十分な水がなく、天水のみで作物を育てるこの地域に、揚水システムを通して十分な水

が村に供給され、新たな農作物を生産します。

私はネパールに赴任してから何度か村を訪れました。普段滞在しているカトマンズは、車の排気ガスなどがすご

く、マスクをして歩きます。村の空気はきれいで、山から見渡す自然の景色は広大です。夜には山の中のたくさん

の家々の灯を見ることが出来ます。日本での都会暮らししかしたことがない私にとって、自然に囲まれたこの村が

「自分に自信を持つとう」ネパールの若者がワークショップ

今、ネパールでうれしいことは、この国の若い世代の活躍です。大学4年生のレシナ・バジュラチャリアさんとレジマ・タパ・マガルさんは、農村の子どものたちの状況を「おかしいな」「何とかしないと」と感じ、「子どもたちが自身に自信を持つことを促す」新しいプログラムを提案しました。二人は大学で総合政策を専攻し、子どもたちの可能性を引き出す方法を学びました。このプログラムを「サクチャム・ビカース（できることの開発）」と名付け、ちょうど震災からの本格復興を目指してJAFSによる大型水インフラ設備整備プロジェクトが始まったシンドウパルチョーク郡インドラワティ村10地区で、サラソワティ小中学校に4月28日から5日間、レシナさん、レジマさんら若者4人が集ってリーダー役となり、地元の中学生たち20人とワークショップをしました。将来を担う人材を育てる力となってくれそうです。レシナさんから届いた報告を要約して紹介します。

（JAFSスタッフ 熱田典子）

大学生たちがプログラムを提案

復興プロジェクト始まった村で

今回のワークショップは、プログラムを提案した私たちが、参加者の中学生（以下「生徒」）たちと一緒に学び、彼らの潜在能力と可能性を引き出すという狙いです。

私たちがこの村をワークキャンプなどで訪れた際、子どもたちの様子か

私たち自身の同じ年頃とかなりかけ離れていたことがショックでした。大変

狭い範囲の教育と考え方にどまり、年齢に応じた考え方を持っていないのです。人前で話すこともためらう様子でした。そこで、私たちができることは何だろうと考えました。初めて

のチャレンジでした。

大きな目的は、子どもたちが自分に自信を持てるようになること。そのために、日常生活を向上させる「5つの良い行動」＝清潔さ、整理と手順、丁寧さ・謙虚さ、時間を守る、集中する」を理解して基本動作を身につけ、社

・人前で話す能力を向上させよう。

・自信を持つとう。そして、リーダーシップを養おう。

・みんなの力で、常にきれいな学校にしよう。

・自分自身のために身につけたい「5つの良い行い」を理解し、常に心掛

けて実行しよう。

参加者の中には、この意図を理解できず、課題に取り組みなかった生徒がいました。英語とネパール語の読み書きができない生徒もいました。清掃プ

ログラムを行うために必要な水が、学校に足りません。スケジュール通りに進めることができず、生徒の能力に応じて変更する必要があります。

それでも、半数以上の生徒が、人前で話すことが上達し、自信を持てるようになりました。

参加した生徒たちの声です。「私はいつも人前で話すことを恐れていました。発表するとき常に私の足は震え、声はしびれたようになって聞き取りにくくなります。でもこのワークショップで自信を磨くことができたように感じ、大いに役立ちました」

「僕は、クラスの中では成績優秀なほうです。書くことで、どんなテーマでも簡単に表現することが出来ます。しかし、答えを知っていても前に出て発表することができませんでした。このワークショップをしてくださったことに感謝です」

このワークショップをしてくださったことに感謝です」

《ワークショップの主な内容》

- 1日目 参加者の生徒が自己紹介（名前、住所、趣味、ワークショップで学びたいこと、自分に起きたいこと）
- 2日目 生徒の元気を出すためのゲーム／人前で話す方法、発表するときの姿勢について学ぶ／再度自己紹介をする

引つ込み思案だった生徒たちの表情が、次第に輝き始めた。園内はレシナさん、ネパール、シンドウパルチョーク郡インドラワティ村



ために生徒とゲーム／清掃活動と身の回りの整理。自分自身を清潔にすることの大切さについて学習。

●3日目 自分の周りのゴミを拾う／ごみを活用したりリサイクル製品を売るマーケティング戦略を設計する／学校の教師に客になってもらい、戦略に従って製品を売る／製品を売って最高金額を集めたグループが2日目の勝者となる。

●4日目 「5つの良い行動」について説明／グループに分かれて教室、トイレ、廊下を清掃／エコクラブを結成し、会長と副会長を選出／4グループが教室とトイレ清掃のスケジュールを立て、同時にモニタリンググループを作り、活動が確実に実施される仕組みを作る。

●5日目 各グループに「5つの良い行動」の一つずつをテーマとして与える／与えられたテーマについて、自分たちが学んだ内容を議論してまとめ、発表する。質問時間を設け受け答えできるように、先生役から促す／最も努力が見られた4人の生徒を最優秀者として選出・全生徒に修了証明書を授与／ワークショップの思い出として、生徒たちが色紙に手型を押し、これから頑張ることを一つずつ記入／エコクラブの代表メンバーへ清掃用品を引き渡し／記念の集合写真を撮影／笑顔でワークショップ終了。

ごみ処理・障がい者支援に驚き

ヒロシマで平和への決意新た

インド、コスモニケタンの先生が来日

インド・ビジャプールの農村の貧しい子どもたちに教育の機会を与えるため、JAFSが現地のNGOであるBSV I Aと共同で23年前に設立した日印友好学園コスモニケタンで創立以来働くアワティ校長、社会科担任のヤンカンチ先生、カナダ語担任のパタナシエッティ先生と、BSV I A代表ナンディーニ・クンパールさんを、JAFS創立40周年記念事業の一環で日本に招待しました。5月16～25日の10日間、コスモニケタン支援会のメンバーあがての歓待で、4人は観光名所だけでなく、大阪市のゴミ処理施設舞洲工場や大病院、小学校や障がい者施設、京都の農村・美山町を見学・訪問し、大阪・京都・東京の3会場での講演会や、コスモニケタン学園の支援者やワークキャンプなどに参加した人たちの交流会に出席しました。先生たちの希望で、原爆被爆地の広島訪問も追加し、平和な世界をつくってくれる子どもを育てる決意を新たにしていました。



講演に予想を上回る参加者

各地の講演会では、生徒たちの様子を先生たちから直接聞けるとあって、予想以上の参加者があり、その後の交流会も和やかなものとなりました。生徒たちの里親さんたちも大いに喜ばれていました。

先生たちにとっても、日本の支援者たちに直接話す機会があったことは、とても良かったようです。「これまで多くの日本人がコスモニケタンを訪れ、日本との深いつながりのあるジャ

施設「ねやのさと福祉会」を訪問したときは、障がい者が使いやすいように設備が整っていることや、一人一人が小さな仕切りの空間を与えられ、自由に作業をする様子を、先生方は興味深く見学していました。

アワティ校長は「ビジャプールでは障がいを持つ人への偏見が強く、目の前にしている光景をどのように伝えたいのか分からない。帰国したら、ここで見たことを、まず村の人々に話すことから始めたい」「障がいを持つ人を、親以外の人が世話するのを初めてこの目で見た。とても感動的な時間だった」と話しました。

ナンディーニさんも「コスモニケタンの一角にこのような施設を作りたい。コスモニケタンの行く道のひとつになる」と語りました。

争いのない国つくる教育を

広島では、原爆ドームと広島平和記念資料館を訪問。資料館で先生たちは、被爆した人々の写真を見て涙を流しました。アワティ校長は、インド、パキスタンの紛争が未だに続く中、争いのない国作りのできる子どもたちをつくる教育が重要だと語りました。

来日5日目の5月20日は学校を訪問するプログラムでした。訪問先は大阪府茨木市立沢池小学校。1976年創立で、児童数700名、学級数は21。普通の規模の学校です。

パン・スクールとして私たちは認識し、子どもたちや地元の人たちからも知られていました。このたびこうやって日本に来て、講演、交流、観光することに、より深く日本とのつながりを認識することができました」とヤンカンチ先生が話しました。

パタナシエッティ先生が講演の中で「日本の若者が開校当初から訪れ、学校の子どもたちとともに環境問題に取り組んでいました。そのことで私も環境問題を意識するようになりました。ビジャプールは乾燥した砂漠のような場所ですが、学校は唯一緑で囲まれています」と誇らしげに語っていたことが印象的でした。

大阪市の全自動のごみ処理工場や原爆被爆地広島の見学は、大阪や京都の名所旧跡とは違った、価値ある場所だったようです。

インドではごみ問題が大きな課題になっていきますので、とても興味を持ちました。ごみ処理工場の投入口も掃いたり水洗いされたりして、清潔に保たれている様子は、案内した日本人の私たちにも驚きでしたが、先生たちには「日本は清潔だ」と強く印象づけられた様子でした。コスモニケタンの生徒たちにぜひ紹介したいと、すべてビデオに収めていました。

「こんな施設をつくりたい」

大阪府寝屋川市にある障がい者支援

朝9時10分に到着して、校長室で学校の概要の説明を受けました。校長と教頭先生が同席し、なごやかな懇談の時を持ちました。「日印コスモニケタン開校20周年」の特集を掲載した「アジアネット129号」を前もって届けていたので、沢池小学校の校長先生たちも、インドのどのような学校の先生方なのか分かっていて、温かく丁寧に歓迎してくれました。教員室、図書室、体育館、図書室、給食室などキャンパスすべてを案内してくれました。

ご飯などのでんぶん質が人間の体液でどのように変化するかを実験している5年生の理科の授業を參觀しました。実験の方法が実践的で生徒が真剣に取り組んでいる様子を、先生たちは感心しながら見ていました。また、リーダーを練習する音楽の時間も楽しく見学しました。休み時間には全校生徒が一緒に運動場に出てサッカー、ドッジボール、鉄棒、登り棒、ウサギの世話等自由に遊んでいる姿も興味深かったです。

先生たちは飛行機に乗ったのは初めてだそうで、「生涯、飛行機に乗る機会なんてないだろうと思っていた。日本に来ることができたなんて夢のようだ」と感動ひとしおでした。今回の日本への旅が、一生の思い出になったことは間違いありません。

(コスモニケタン支援会 柏木道子、吉田暢子、大本和子、横山浩平)

障がい者支援施設「ねやのさと福祉会」を訪れ、木工細工のやすりかけを見学する一行。後列右2人目からナンディーニさん、アワティ校長、2人おいてヤンカンチ先生、パタナシエッティ先生。5月21日、大阪府寝屋川市



JAFS会員の酒井伸雄さんは、南インドの子どもたちを支援するボランティア活動のため、たびたび同地を自主的に訪れています。酒井さんがインターネットのブログ (<http://yogananda.cc/2019/03/23/sh/>) に発表した現地レポートを、要約して紹介します。

南インド支援地訪問記

インド最南端タミルナド州を訪ねるのは今回で8回目、同州にはJAFSの支援団体があり、このたび初めてそこを訪問させていただきました。SSH (Society for Serving Humanity) という団体で、貧困家庭やHIVに感染した子どもたちの支援、女性の経済的自立・地位向上のための活動を行っています。

幸い懇意にしているインド人スシルが田舎に帰省する予定があるとのこと、彼の車でSSHまで送ってもらいました。3月23日、SSHに到着すると、支援を受けている子どもや女性たちが大歓迎してくれました。写真右。子どもや女性たちが自身の置かれている現状を一人ずつ説明してくれました。子どもたちの多くは片親か両親を亡くし、そして驚くことに、その半数以上がHIV/AIDSに感染しているのです。HIVは根本的治療法のない病です。できるのはエイズとなって発症するのを防ぐことだけです。インドの子どもたちは限りなく明る

天使の笑顔、HIVの子どもたち

く素直で可愛らしく、HIVに感染した子どもたちもまったく変わることはありません。感染はすべて両親からであり、エイズ発症まではほぼ元気です。子どもたちがこんなに深い苦しみを抱えているなんて、過酷な現実に胸が押しつぶされそうになりました。子どもたちは自分たちの村にいて生活や学業、食糧の支援を受けています。今日は私の歓迎のため、わざわざ母親や祖母とともに集まってくれたのです。バスを3つ乗り継ぎ3時間半かけて来てくれた子どももいました。ほとんどは貧しい村の出身でカースト最下層であるダリット(不可触民)で、親御さんの中には体調を崩し、働くことのできない人もいます。子どもたちが当たり前の日常を過ごし、学校に通って知識や技術を身に付けるには資金、援助が必要であり、SSHはそれを助ける活動を行っています。

子どもたちの中には医者や看護師になりたいと具体的志望を語る子もいて、そのために進む上級学校の学資の必要額も教えてくれました。年間1万5千円、約2万5千円で、日本人が少し贅沢を我慢すれば決して払えない額ではありません。『うばい合えば足らぬわけ合えばあまる』、この言葉を心の底から囁かれました。

SSHの活動は1988年から続いていて、援助を受け学校を卒業した大きな子どもも来てくれました。彼らはハイ

スクールを卒業してエンジニアになったり、さらにディプロマという専門技術を学ぶ上の学校に通っています。たまたま縁あってインドと深い関係を持ち、たまたま縁あってアジア協会アジア友の会を知り、たまたま縁あって日本語が堪能で正義感の人一倍強いスシルと懇意になり、たまたま縁あってスシルの帰省に便乗してSSHまで連れてきてもらい、彼に通訳とインドの現状についての解説をしてもらい、すべては必然によって導かれた何かだと思わずにはいられません。今を懸命に生きる子どもたちから、自分も真摯な生き方を強く求められていることを感じました。

女の子の一人がアクセサリーを作つて生計を成り立たせていて、そのいくつかをお土産として買いました。日本から持ってきたぬいぐるみやお菓子も配りました。みんな素晴らしい笑顔をしていて、この子たちからとても大きなものをもらいました。

ある10歳の女の子はお米や穀物、豆などが入った食料支援物資とぬいぐるみを手にして大喜びしています。彼女の微笑みは天使そのものですが、肉體は病に蝕まれています。こんな穢れなき存在が…。

真の穢れとは、肉體や形あるもの存在するのではなく、目に見えない心のあり方に存在するのでしょうか。この後、子どもたちの村へ向かいま

学び・自立めざす熱意 かなえてあげたい

した。最初はハイスクール11年生の17歳の女の子の家にきました。お父さんは亡くなり、お母さんと弟と生活しSSHから生活物資や学資のサポートを受けています。家は、頭を低くして入らなくてはなりません。写真左。屋根は瓦を並べただけで、激しい雨漏りがし、地面むき出しの床はびしょ濡れになるそうです。彼女も上の学校へと進みたいものの、クーリー(農作業などの手伝い)をしているお母さんの収入では難しいと語っていました。

次の家庭も2人姉弟、両親はおらずおばあさんと暮らしています。私にできるのはただ話を聞いてあげ、そしてお菓子や風船をプレゼントし、ハグしてあげることぐらいです。

最後は女性の自立支援活動をしている村に行き、女性グループから話を聴きました。インドでは女性の地位が低く、経済的にも自立困難で、SSHはそこから脱するための起業支援や職業訓練などを行っています。近年日本では男女が同じ権利を有し、いずれインドもそうなるでしょうと語ると、とても喜んでくれました。

今日はもう胸に抱えられる許容量の何倍もをみんなからいただき、使命感と責任感の重さをひしひしと感じます。今日は生涯忘れられない一日であり、今の思いを大切に、今自分のできることから始めて行きます。ただそれだけであり、それがすべてです。

バンガロールの職業訓練学校が開校 インド

2018年2月からインド、バンガロール県に建設していた職業訓練学校が同年末に完成し「写真上」、今年4月1日に開校した。

A棟(教室、学生寮、教員室、キッチン)、B棟(事務室)、C棟(技術訓練室・研究室)、D棟(多目的ホール)、トイレ、バスルームなどからなり、授業に必要な工具などの資材・機材を設置している。インド中央政府の職業訓練・実業家育成省が中心の職業訓練専用プログラム「スキル・インディア・プログラム」の承認を受けてカリキュラムを作成し、National Skill Development Corporation (NSDC)、職業訓練公社)からカリキュラムの提供を受けている。

学校のカリキュラムでは、基礎技術研修(自動車工・電気工)、職業倫理研修(サービス業、ホテルなど)、小売業研修、英語研修、ビジネスマナー研修などが行われる。それぞれ決まった時間を受講して、研修を終了する仕組みとなっている。

18〜30歳のインドの低所得層の若者を対象としており、彼らがこれまで学校で学ぶことができなかった、時間管理、職場における自己表現、服装や心

開校した学校で、電気
工具の使い方の研修を
受ける生徒たち



構えなどのビジネスマナーを指導し、実社会で持続的に働ける人材を育てることを目的としている。
事業当初からカリキュラム作りと政

府承認を目指したが、予定していたカリキュラムの連携機関との交渉が中断し、さらに天候不良による建設工事の中断も度重なって、計画は大幅に遅れ

た。そのため、開校時期を18年9月から19年の4月へ変更した。JAFSの現地提携団体IJDSCの代表であるウノ・イクバル氏がNSDCと粘り強く交渉した結果、生徒のニーズに合ったカリキュラムがNSDCから受けられることになり、政府からも承認を受けることができた。

学校運営はIJDSCが担い、B棟の事務室を使って行う。当面は、学費と本校の生徒を採用する企業からの寄付などにより運営することになった。

JAFSも今後、資金協力と学校運営のモニタリングを定期的に行い、学校運営を安定させると同時に、現地のニーズにあわせたカリキュラムの拡充をNSDCとともに進めていく予定である。

18年2月からの建設事業に始まり、学校建設、カリキュラムづくり、インド政府からの開校承認など、学校を今後維持していくための最も重要な土台を完成させることができた。

開校直後のため、現時点では実績のない学校ではあるが、NSDC提供のプログラムを規定どおりこなし、生徒を企業採用へつなげ、信頼を高めていくことが、これからの資金協力獲得や持続的の学校運営にもつながっていくと認識している。

(JAFSスタッフ 横山浩平)
※本事業は、平成29年度日本NGO連携無償資金協力支援事業です。

遠い学校に通える自転車 カンボジアへ373台



暮らしを変えるサイクル・エイド

日本で使われなくなった自転車を再生し、必要としている子どもたちに贈るサイクル・エイド事業。大阪府内の堺、泉佐野、八尾、大阪、東大阪、泉大津各市から提供いただいた自転車、合計373台をカンボジアに贈り、3月27日〜31日に自転車贈呈式典と国際

交流プログラムを行いました。プレイベン州プレイヤン地区メソプロチャン村では、5つの小学校の子どもたちに300台を贈りました。写真。同州はプノンペン約90km東に位置し、ベトナムと国境を接する平原湿

%が稲作を中心とした農業で生計を立てています。州の名前プレイベンには「背の高い森林」との意味が込められていますが、伐採や戦争の影響で現在は失われています。

自転車を受け取ったロハニーさん(12)は「今まで片道3kmを毎日歩いて通学して大変だったけれど、これからは自転車を通えます。勉強を頑張つて、将来学校の先生になりたい。自転車を使いたい人が家族の中で4人いるので、仲良く使います」と、とても喜んでいました。

また、6年生のランナン君(13)は「学校と家は4km離れていて、今まで片道40分以上かかって歩いて通っていました。これからは15分で通えます。本当にありがとうございます」と話してくれました。

タケオ州プレイカバ地区チャンパー村のチュロイ小学校には73台を贈りました。プノンペンから南に約80kmに位置する田園地帯で、住民のほとんどが稲作や果樹園、ハス園などの農業で生計を立てています。

贈呈式の後、「好きなことと将来の夢」をテーマに教室で子どもたちと交流しました。歌が好きなのはカンボジアの伝統的な歌を披露してくれました。将来の夢は医者、学校の先生、警察官が多く、工場で働いて家計を助げたいとの声も。子どもたちは学校に通えること、勉強できることを両親に感

謝し、友達と一緒に学校生活をとても楽しんでる様子でした。

勉強を続けたいが、家庭の経済的理由で毎日の通学や進学をあきらめていた小・中・高校生の子どもたちにとって自転車は、毎日安全に通学し、継続して教育を受けられる大きな助けとなっています。

また、地域の住民も自転車の利用で、より効率よい生活環境に変えていくことにより、女性の社会進出や生活上向上へつながってきています。自転車を受け取った子どもたちや家族はとても喜び、大切に自転車のメンテナンスを行い、またより熱心に勉強や仕事に取り組んでいました。自転車の寄贈は、より必要とされている人々に公平に贈れるよう、政府、NGO、村の組織等で協力体制をとりながら、話し合いによって決められています。まだ、多くの希望者が待っており、事業の継続が望まれます。

今、カンボジアでは毎週木曜日に各学校の生徒が朝早くからゴミ拾いをしている運動が広がっています。道端にたまってたゴミが減り、きれいになると新たにゴミを捨てる人も減ってきました。小さなことの積み重ねで住民の意識が少しずつ変わり、地域の環境改善につなげようというボランティア活動です。(JAFSスタッフ 岡本佳子)
※本事業は競輪の補助を受けて実施しました。



植林からエコツアーへ 広がりに深まる交流の輪

「10万本」達成し、5つの新目標 フィリピン

フィリピン、ソルソゴン州マトノックでJAFSは、2014年から12回のワークキャンプを通じてマングローブを植林し、日本から延べ97名が参加して10万本の目標を達成しました。場所により活着率に差があるものの、苗は年々成長し、一緒に植林とメンテナンスをする村人たちの意識は確実に変わってきました。次のステップとして日比協力して何ができるか現地コーディネーターのジーナさんと話し合い、19年度の新目標を5つ作りしました。

- ① **植林**
マングローブは村々で自主的に植えられるようになったが、新たに始めた村もツアーの時に一緒に植林し、過去に植えた苗木のメンテナンスをする。成長が早く、海岸沿いに根を張って土地を守ってくれるバニを植える。
- ② **有機農業支援**
地域にある、今まで捨てていたココヤシの殻や生ゴミを肥料に用い、安全

海岸にバニを植えるエコツアーの参加者 5月17日、フィリピン、ソルソゴン州マトノック

でおいしく体にも良い野菜を安く作り、生計につながる農業を支援する。

- ③ **エコロジカルツーリング**
マトノックに残る豊かな自然を満喫するとともに、地域の環境を見直し、生活改善に協力する。
- ④ **健康プログラム**
収入につながる産業が少なく、現金収入を得ることが難しい地域の生活実態を知り、予防医学につながるプログラムを実施する。
- ⑤ **子どもたち・村人との交流**
現地の人々との交流を通じて、フィリピンと日本の互いの文化を学び、国境を越えた友情の輪を広げる。プロジェクトを通して地域や地球環境への意識を高める。

目標を実行するため5月14～19日に現地で行ったエコツアーには7名が参加し、様々な取り組みをしました。

最初に訪れたソルソゴン州イロシンのココナツ工場は、有機農業を地域に広げる活動に取り組んでいます。昨年話し合われた通り、ココナツの外

皮から繊維を取り除いたものと牛糞、生ゴミ、もみ殻くん炭、鶏糞など地元で簡単に手に入れられる材料を混ぜ合わせ、有機肥料を作っていました。農業をしているツアー参加者から「これはいい肥料だ」と褒められ、現地のメンパーもとてもうれしそうでした。工夫しながら、農薬や化学肥料をせずに安全な野菜作りに取り組んでいました。もう少し軌道に乗れば、肥料の販売や収穫物を少し高く販売できる可能性が高まります。

マングローブを植えたゲナブランオリエンタル村、ティクリング島、サンタイサベル村も訪ねました。厳しい環境下で成長している姿に、感動と感謝の気持ちでいっぱい。10年後20年後に森になることを願い、苗木に絡まる海草やゴミ、虫を取り除きました。エコツーリングとして、海沿いだけではなく沼地や川のぼりも体験し、マトノックの新たな魅力に触れました。さらに、京都暁星高校が寄贈した井戸がある山の学校を訪れ、元気な子どもたちと交流しました。健康プログラムを取り組みについては、杉本牧子さんが次に報告します。

これからも、地域を良くするチャレンジは続きます。ぜひ、あなたも、得意分野を生かしてプログラムに参加してみませんか？ 次のエコツアーへのご参加をお待ちしています。

(JAFSスタッフ 岡本佳子)



生活習慣病の予防を広める

私は、JAFSでボランティアを始めて2年足らず。定年まで看護師として勤めましたので、医療関連のボランティアをしたかと思っています。

昨年初めて、フィリピンのスタディツアーに参加しました。成人の方が内臓脂肪が多そうな体型をしていたことが、気になりました。高血圧でふらつくと言っていました。垣間見た食事は、フライドチキン、豚バラ塊の煮込みなど肉料理が多かったです。アメリカの植民地だった時代の影響と考えられますが、油が多い料理、砂糖を多用した甘い飲み物が好まれていました。

WHOの西太平洋地域事務局長の葛西健氏も「技術の進歩に伴う生活の改善が認められ、人口の急速な高齢化、急速な都市化、活発に継続発展が進む地域は一方で、高血圧や糖尿病といった生活習慣病の問題、地域社会格差の拡大といった問題に直面している地域もある」と指摘しています。

昨年は、子どもたちの健康状態を把握するため、身長・体重を測り、遊びの寸劇と歯磨きの重要性を知らせるワークショップをしました。今年はそのを発展させて歯の汚れの見える化のために「薬で赤染め」を行い、「みがき

残しの所を注意してね」というワークをしました。子どもたちは互いの歯を見て大笑い！ 赤色をとりうと一生懸命磨いていました 写真、後列が私。

大人の生活習慣を頭ごなしに指導しても共感してはもらえないと思い、まず狙いを子どもたちに絞りました。「野菜を食べるのが大事、丈夫な体を作ります」と伝えるため、ニンジンの形に切ったフェルトに顔を書いてもらい、裏に成分の「ビタミンA」を書いて歌を歌ってもらいました。子どもたちが歌を覚えて家庭で話題にしてもうと、親も料理に少しでも気にかけてもらえるかなと考えました。

暑い気候の中、冷蔵庫もないので、食べ物塩辛く濃く味付けして腐敗を防ぐのは理にかなっています。野菜は市場にたくさん並んでいます。値段が高く、少ない収入に見合うように、ご飯と味の濃いおかず少しく、おなか一杯にする食生活なのです。

病院は少なく、医療費も高いので、あまりかかれませんが。アジアの貧しい地域においては、糖尿病性壊疽^{壊疽}による切断手術が外科手術の大きな割合を占めているとのこと。病人が増えること、生産性の低下、医療費の高騰などにつながります。

これからも生活習慣病予防のため、子どもたちの食育をし、行動しようとの思いを強くしました。

(JAFS会員 杉本牧子)

JAFS創立 40周年を前に

2019年10月にJAFSは創立40周年を迎えます。これを機に、今のアジアが抱える課題と本会の取組みについて、4回シリーズでお知らせしています。

(JAFSスタッフ 熱田典子)

就学率は上がったが…

「ノリコアンティ(ネパールのユースメンバーは私のことをこう呼びます)、中学生なのに文書が書けない子どもたくさんいるの！」

私が到着すると、AFSネパールのユースメンバー4人が、この驚きを少しでも早く聴いてほしいとばかりに駆け寄ってきました。ネパールの山間へき地の村。カトマンズ出身の彼らが講師となり、公立中学校の1・2年生に5日間のセミナーを実施中でした。

私は「書けないってどういうこと？まさか、そんなことが……」と思いましたが、セミナーで学んだことを各自がノートにまとめる時間になると、スラスラと書いているのはわずか2、3名。ほとんどの子どもはペンをゆつくりと、日本の小学1年生が50音を思い

子どもたちの格差を広げるものとして忘れてはいけないのが、コンピューターとインターネットでしょう。

離れている所、人、国の情報を得るのに、教育現場でもインターネットの活用が必須になっていきます。昔は辞書を引いて調べていたことを、現在はインターネットで調べる人の方が圧倒的に多いのが日本の現状です。私自身、現在高校2年生の娘が本の辞書を引いているのを見たことがありません。高校入学時には本の辞書ではなく、電子辞書の購入案内がありました。世界を見ても、前出のユニセフの統計によると、15〜24歳の若者の71%がインターネットに接続して生活しているといわれています。こうした日本とネパールとを比べると、子どもたちに大きな差が生じてきていることが分かります。

どの国でもインターネットを教育現場に取り入れていく方針になって来ているようです。前記の子どもたちが通う学校で「Wi-Fiを契約し、教科に關係する動画を子どもたちに見せたい。プロジェクトを支援してもらえないか」と校長先生から頼まれました。私が「それにつながるができるコンピューターはあるのですか？」と尋ねると、「コンピューターが必要なのですか？」と聞き返されました。

理解しなければならぬ基礎を理解できないまま、新しいシステムやルールが横行しています。校長先生の返事

③ 子ども支援は今…

ネットの有無で教育格差



一緒に音楽に聴き入るネパールの小・中学生たち。彼らの意欲にこたえて学びの平等をかなえてあげることが今、私たちに求められている

「公平で良質」高いハードル

は、今のネパールの教育現場そのものを現しているように感じました。

十数年前、バンングラデシユの提携団体の代表が来日したおりに「わが国の子どもたちは、働くという責任を背負って生まれてきている」という言葉を聞きました。アジアの子どもたち全ての状況を現す言葉だと、私の心に深く刺さりました。それからアジアは猛スピードで変化していきました。でも、それに乗れていない人たちが多くいます。ほとんどがへき地に住む貧しい人たちです。同じ国でも、都市と大きな格差が生まれているのです。

情報が不十分だと、学校も教師も、比べる相手がいないため、ある程度とところで満足し、向上心がストップします。親たちも、学校に行かなかった、もしくは低学年に就学したのみであるため、子どもに何も教えることができないと感じ、学校に依存してしまいません。子どもたちは、能力を十分に伸ばして成長できる教育を保障されるはずが、残念なことに、現実はずっと隔たっています。

国連サミットが採択したSDGs(持続可能な開発目標)の4は「すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進

出しながら「き・れ・い・に・書く」と1文字ずつ書くようなテンポで動かしています。中には止まっている手もあります。本当に書けないことが分かりました。書けないので自信が持てないのか、発表の時間、指名されても発言できずに萎縮しています。

近年、アジアの多くの国や地域の初等教育就学率は、格段に上がっています。ユニセフ子ども白書2017の統計を見ると、ネパールは97%です。本会がアジア里親の会を通じて支援している国では、バンングラデシユ91%、インド92%、カンボジア95%、フィリピン96%(いずれも2010年代)と比べても、数字上は良いことが分かります。大地震以後、国際機関の支援が入って教育全般が見直しを求められ、学校がようやく「教育現場」となりつつあることが背景にあるようです。

しかし一方、とりあえず就学させることを優先して体裁だけを整え、中身の充実が伴っていないことが、課題としてささやかれています。これが前記の子どもたちの状況を作り出している一因であると考えられます。

実情に合わせぬ新ルール

成人の識字率をユニセフの同じ統計で見ると、ネパール60%、バンングラデシユ73%、インド69%、カンボジア74%、フィリピン96%という結果が出ています。

つとも取り残されている子どもたちが、最低限12年間の無償で、安全で、質の高い教育を修了できるようにG20各国が努力すること

(公益財団法人ブラン・インターナショナル・ジャパンのHPより抜粋)

この提言が今後どのように生かされるかに注目すると同時に、G20の前日までに行われる市民会議などの場で一市民としての意見を言うことも、私たちの役割の一つであると思います。

一方、外国人雇用が拡大する日本では、その子どもたちの学習に関する課題が増えています。

日本で職を求める外国人たちは、来日してから子どもを就学させれば何とかなると思つてやってきました。でも、中学まではそれで何とかなっても、高校への進学はハードルががります。入学を断念したり、入学しても単位を習得できず退学する子が多く、夢破れて自国へ帰ったり、アルバイトで生活費を稼ぐ不安定な生活を送ったりしています。アジアの子どもたちの格差問題は、日本社会とも大きく関係していると言えるでしょう。

子どもたちが持っている可能性を高めて自分に自信を持ち、社会に役立つ人材となれるように、子どもたちが犠牲になることがないように、子どもたちを取り残すことがないように、JAFSだからこそできる子ども支援を大切にしていきたいと考えます。

新しい水場をきっかけに地域づくり

ヒマラヤが一望できる景色の良い村です。住民は農業で生計を立てていますが、バスが通る遠い道まで作物を下ろさなければなりません。そのため限られた量しか販売できず、現金収入が難しい地域です。生活用水は800mも下がった所から、2時間以上かけてくんでいました。2015年の地震でほとんどの家が倒壊し、18年にやっと全世帯が復旧しました。女性たちは、寄贈していただいたこの新しい水場をきっかけに、新しい地域づくりを進めたい、と意気込んでいます。



【寄贈者】 Nittoグループ様
シンドウパルチヨーク郡メラムチ町ジャナリ村
受益者：19名（4世帯）
井戸形式：水道パイプライン

【寄贈者】渡辺治彦様

女性たちの長年の夢がかなった

シンドウパルチヨーク郡メラムチ町ジャナリ村
受益者：26名（5世帯）
井戸形式：水道パイプライン



住民は農業で生計を立てています。市場へ行くバス道から遠いため作物を大量に出荷できず、雨季には崖崩れがひんぱんに起きて数カ月も孤立することがあります。生活用水は800m下の水源地まで日に何度もくみに行っていますが、道が悪く、けが人が絶えません。2015年の地震ではほとんどの家が倒壊し、2018年末にようやく復旧することができました。水くみが日課の女性にとって長年の夢だった新しい水場が近くにでき、新しい地域づくりに意欲を燃やしています。

水道型水場で生活一変 【寄贈者】 NPO法人コンパストウキョウジャパン様

ヒマラヤ山脈を一望できる景勝地ですが、それだけに、大量の農産物を市場に出すには不便で、住民は収入が限られています。しかも今までは、悪路を通って日に何度も生活用水をくみに行くので、他の仕事ができず、生活が苦しくなるばかりでした。けがをすることもありました。2015年の地震で倒壊した大半の家屋が2018年にようやく復旧し、同時に貯水タンクからの水道型水場ができ、生活が一変しました。これを契機に女性たちは地域の生活改革に情熱を燃やしています。



シンドウパルチヨーク郡メラムチ町ジャナリ村
受益者：22名（4世帯）
井戸形式：水道パイプライン

ご寄付には
税の優遇措置が
受けられます

なくそう貧困。命の水を！

井戸の寄贈にご協力ください。あなたの力がアジアの人々の命を助けます。ご寄贈者に完成報告書、写真、パネル写真を届け、現地の井戸に、ご寄贈者のネームプレートを設置します。

■井戸1基の建設に必要な費用■（2018年4月現在）

インド=60万円 フィリピン=33万円
カンボジア=28万円 スリランカ=22万円
ネパール=17万円（パイプライン=25～150万円）
バングラデシュ=浅井戸22万円、深井戸55万円

※5年間のメンテナンス費、現地管理費を含む概算です。※現地資材費高騰により費用を1割増に変更させていただきます。ご理解ご協力をお願いいたします。

■お振込み先■ ・郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会
・三菱UFJ銀行大阪中央支店 普通1968711 公益社団法人アジア協会アジア友の会

詳しくはアジア協会アジア友の会
06-6444-0587へ

安全で衛生的な水を確保できないアジアの地域に井戸ができて生活基盤が整い、自立へ一歩踏み出せるようになりました。ご寄贈くださったみなさまに感謝申し上げます。

みなさんのおかげで 井戸ができた村

学校に通えて子どもたちの将来に光

【寄贈者】北川弥壽子様

古くからある井戸は深さが12mしかなく、汚水が流れ込みました。トイレの後の手洗いも十分できず、感染症の原因になっていました。人口が密集して一軒の家に多世帯が住むため水の需要が増え、水くみは重労働で1日の大半を費やします。村に初めて深井戸ができ、子どもの多いこの地域の衛生環境が改善し、衛生意識と生活が飛躍的に向上しました。水くみに時間を取られて学校に行けなかった子どもたちも毎日学校に通うことができ、将来に希望の光が見えてきました。



ヌエバエシハ州カピア町サンタ・リタ村
受益者：140名（20世帯）
井戸形式：ポンプ式（深さ35m）

【寄贈者】濱口宸也様

病気を防いで健康的な生活

タケオ州トレアン郡ロネアム地区タマダ村
受益者：32名（8世帯）
井戸形式：露天式（深さ20m）



村民の86%が自給農業。作物は自家で消費するため、現金収入がありません。村民はヤシ砂糖作りや季節労働者として都市に出稼ぎに行っています。子どもたちは100%学校に通っています。以前は1km離れた井戸まで毎日水くみに行くか、水を買っていて、家庭では大きな負担になっていました。トイレの普及率は10%しかなく、病気の原因になっていました。新しい井戸ができて衛生環境が大幅に改善し、健康的な生活を送ることができます。心より感謝申し上げます。

2018年の活動報告 みなさまのお力で 達成できました

さらに各国から ▶ 2019年の支援事業 要請が来ています

2018年度も皆さまのお力によってアジア各国への支援活動に取り組むことができ、水、子ども、貧困対策、環境、サイクル・エイドなどの支援事業を展開しました。また国際ネットワークセミナーをマレーシアで開催し、

アジアと日本の参加者が共に討議しました。2019年度も各国から現地の状況に応じた支援要請が来ています。アジア各地域の人々としてしっかり連携し「なくそう貧困。命の水を！」に取り組んでまいります。



ネパールの養蜂事業で、技術向上のため日本人による研修を実施

養鶏・養蜂・漁場整備で生計安定

貧困対策事業

2018年度のマイクロクレジット

・能力開発事業は次のようでした。インド・アムラワティ県の女性グループの養鶏事業では、養鶏指導、貯蓄指導をしました。マハラシュトラ州ガッチョリ県のナプキン工場支援については、現地との協議により工場設置は取りやめ、現地NGOが支給するナプキンの普及と指導に変更して実施しました。スリランカで農村開発ファシリテーターを支援しました。

ネパールでは、タライ平野での養蜂支援による蜂蜜採取が順調になったため、現地主動に移行しましたが、気候不順のため収穫量が下がっており、課題は残っています。農家の自立を促進すると同時に、シンドウパルチヨーク郡の地震被災地の農業振興のために農業グループを組織化しました。

フィリピン・ソルソゴン州のマンガローブ植林5カ年事業では、最終5年目で10万本の目標を達成し、漁場復活による生計安定の土台ができました。また外務省「平成29年度NGO連携無償資金協力支援事業」の資金供与を受け、インド・バンガロール県に職業訓練学校を建設し、インド政府の認可を受け開校しました。12頁に詳報。

保健衛生と医療を支援

インド・マハラシュトラ州ムスカ村の病院運営について、医者による週2回の診察、常勤看護師と事務員の雇用、薬や喘息用吸引器購入を支援し、ムスカ村と周辺12村の延べ3700人が診療を受けることができました。中国農村地域の医療支援は現地事情により実施を見送ることとなりました。ネパールのバグマティ県農村地域の女性の健康維持のため、2校120名に生理用ナプキンの配布、看護師による講習会を行い、女性たちが抱える問題に向き合いました。加えて母子保健改善のためのセミナーを実施し、日本から助産師を講師派遣しました。

提携NGOの運営助成

JAFS現地提携団体の運営とマネージメント強化のために、RUDYAとHDSI（インド）、KAFFS（カンプジア）、SARVODAYA（スリランカ）に運営費を助成しました。

植林や環境教育で未来づくり

環境事業

インドネシア北スラベシ州タリセ島で、環境を守り島民の利益にもつながるようにマンゴーやジャックフルーツ

など果樹1000本を植林しました。また2003年のインド洋大地震大津波の風化を防ぐため、地元大学生の参加を得て防潮林マンゴローブ600本を植林し、小・中学校で環境教育をしました（公益信託地球環境基金助

成）。ネパールでは、地域の森を守るため、2村のコミュニティフォレストに1000本を植林しました。

グリーンスカウト運動 セミナーや水源林植林

1986年に発足したグリーンスカウト運動（環境保全市民運動）は、現地提携団体を中心に、地球環境保全に関する様々な啓発活動を行っています。

インド・マハラシュトラ州でグリーンスカウト運動の継続に必要な支援をしました。ネパールでは、各地で継続するグリーンスカウト運動のほか、小学校3校の児童と教師に対して環境意識向上を目指したセミナーを2回実施し、校内や地域での環境保全活動の推進につなげました。JAFSが建設したフィリピン・パン

水事業

パイプラインと井戸84基を完成

2018年度はアジア6カ国（インド、カンボジア、スリランカ、ネパール、バングラデシュ、フィリピン）の農村地域51カ所に、飲料水のための井戸およびパイプライン計84基を完成し、遠方への水くみを強いられたい人々の生活環境を改善できました。加えて、気候変動による近年の降雨量減少や、地震に起因する水源枯渇による水不足の課題に対し、水を確保して貢献することができました。



ネパールの小学校で、ゴミの性質を学ぶ環境プログラム



地域の環境をテーマに絵を描くフィリピンの子ども

ダン町の水道の水源

インドのパタトラ小学校で、インドの大学生が、コンピュータを初めて見る子どもたちに特別授業



校庭に出て昼食を食べるインド・コスモニケタンの生徒たち



給食を食べるネパールの小学生たち



子ども事業

5カ国の里子472人に教育資金

アジア里親の会（教育里親制度）により、アジア5カ国（インド、カンボジア、スリランカ、ネパール、フィリ

ピンの）の生徒472名に対して教育資金を支援するとともに、学校設備を整備しました。

学校の運営・設備支援

インド・カルナータカ州ビジャヤプーラ県およびマハラシュトラ州ガッチロリ県の日印友好学園コスモニケタンおよびパタトラ小学校の運営、および設備や遊具などに対して支援しました。

2019年度 貧困対策 事業計画

国	提携団体	実施地域	内容・意義【必要資金(円)】
インド	SPARSH	マハラシュトラ州	女性の性教育を布ナプキンを通して行い、保健状況の改善と、月経健康管理訓練で自己管理できる保健体制づくり【30万】
	IJSDC	カルナータカ州	貧困層の若者自立のために2019年4月に開校した職業訓練学校における必要な研修【20万】
	HDSI	マハラシュトラ州	村の女性の雇用促進を旨とした養鶏の支援【50万】
	RUDYA	マハラシュトラ州	ムスカ村に設立した診療所において、健康の基礎診断や治療、投薬などができるよう運営を支援し自立運営に導く【100万】
	AFS-Sangli Janseva Pratihthan	マハラシュトラ州	インドの貧困層の女性、特に未亡人の女性が自立した生活を歩めるよう、ヤギの育成指導を主とした農業支援【30万】
スリランカ	SARVODAYA	全域	村での話し合いと課題解決の場づくりのための啓発支援【26万】
ネパール	AFS-Nepal	バグマティ県	農村の保健衛生向上、産婦人科充実化支援と、性に関する女性の意識向上や布ナプキンの普及による女性の保健改善【40万】
		ルンビニ県、バグマティ県	農家の自立促進・農業発展のための農業組合の設立、農業推進の基盤作り、農業用水設備の整備などの支援【100万】
カンボジア	KAFS	タケオ州	農村の所得向上・貧困緩和のため、小規模零細事業の支援【72万】
フィリピン	AFS-Sorsogon	ソルソゴン州	農漁業で生計を立てる貧困層の人々のために、漁場となるマングローブの植林や有機農業の推進を行う【60万】

2019年度 環境 事業計画

国	提携団体	実施地域	内容・意義【必要資金(円)】
インド	HDSI	マハラシュトラ州	環境保全推進運動普及のための活動を支援【17万】
ネパール	AFS-Nepal	ルンビニ県、ナラヤニ県、バグマティ県	森林伐採が進むネパールで、国有林の保全と管理を地域森林信用組合に委譲し、植林と森林資源の計画的利用を促進【180万】
		ルンビニ県、バグマティ県	小中学生へ環境教育、環境保全推進運動の活動費支援【50万】
フィリピン	AFS-Philippine	全域	燃料を薪に頼り森林破壊が深刻なため、家畜牛の糞を発酵し、生活燃料にするためのバイオガスプラント設置を支援【70万】
インドネシア	AFS-Acch	スマトラ島	焼畑や違法伐採で水源林が破壊され、土砂崩れも招いているため、水源や川の土手に植林して再生【60万】
			津波被災地バンダアチェでマングローブを湾岸部に形成して防潮・防災し、また住民とガーデンシティ形成を目指す【70万】

2019年度 水 事業計画

国	提携団体	実施地域	内容【必要資金(円)】
インド	BSVIA / RUDYA / HDSI / SSH	カルナータカ州/マハラシュトラ州/タミルナドゥ州	井戸建設【1基60万×5基】
カンボジア	KAFS	タケオ州	井戸建設【1基28万×17基】
スリランカ	SARVODAYA	全域	井戸建設【1基22万×7基】
ネパール	AFS-Nepal	全域	井戸・パイプライン建設【1基17万～×14基】
バングラデシュ	BDP	ポリシャル県、ジャマルプール県	井戸建設【1基22万×10基】
フィリピン	KALIPI / AFS-Sorsogon	全域/ソルソゴン州マトノグ町	井戸建設【1基33万×13基】

し、主に2015年に起きた地震後の教育環境を改善しました。

HIV/AIDS支援

インド・タミルナードウ州ディンディガル県とナマカル県で、HIV/AIDS（ヒト免疫不全ウイルス/後天性免疫不全症候群）に感染した児童と家族5世帯を支援しました。

ネパールで栄養指導

ネパール・タライ平野の低所得地域の小学生約200名に給食支援と栄養指導をし、子どもたちの栄養状況を改善できました。また、昔ながらの生活習慣で暮らしている山間村の栄養改善を実施するために、調整や準備をしました。

スラムの子どもたちも

インド・マハラシュトラ州ナグプールのスラムの子どもたちを対象に、教材配布と教育指導を行うとともに、家族のために毛布を配布しました。また子どもたちがより安全な環境で教育を受けられるように、施設の建設を始めました。

フィリピン・マニラ市内の鉄道沿い地区で、廃材を集めて作られた家で生活している子どもたちの教育支援を続けました。また、リザール州のダイケアセンター建設に着手し、完成しました。

マレーシアで国際セミナー開催

国際交流事業

2018年度は、第28回アジア国際ネットワークセミナーをマレーシアのパナ州で開催し、アジア11カ国から81名が参加しました。テーマは「世界的な気候変動が貧困問題に与える影響と対策」。基調講演や、インド・インドネシア・ネパールなどからテーマに関する実践内容についてケーススタディの報告がありました。また、分科会

と宣言文を作りました。このほか、パナ州におけるミャンマー・ロヒンギヤ難民の支援地を訪れ、支援物資を提供しました。第5.5回アジア・ユースサミットをインド・カルナータカ州ビジャプーラ県で開催しました。インド、ネパール、スリランカ、日本から21名が集まりました。テーマを「多様な社会と地球温暖化に対する若者のグラウンドデザインづくり」として、各国の地域社会における地球温暖化と多様性の課題に

関してプレゼンテーションをし、その内容にあわせて共通に取り組めるグラウンドデザインを作りました。写真上。参加各国のプレゼンテーションから課題が定められ、期間・実施条件などを定め、実践的で具体的な方法が示されました。そのほか文化交流の一環として、日印友好学園コスモニケタン、マニハルスレパン女学院から、演芸と舞踊が披露されました。アジア草の根の自立・連帯基金である「アジア・フレンドシップ基金」は、アジア国際ネットワークセミナーで基金拡大に向けた政策や課題を共有しました。

3カ国でスタディツアー

インド、フィリピンの2カ国でスタディツアーを実施し、46名が参加しました。

職員研修と奨学金支援

本会のネットワークを将来担うアジア各国提携団体の職員の研修・育成のため、フィリピンのアジア社会科学学院（ASI）の地域開発コースに、インドから1名を派遣し、奨学金支援を行いました。

また、海外ボランティア研修制度により、2018年8月6日～9月25日、大阪工業大学の溝口竜太郎さんがネパールで様々な農村開発事業の研修を受けました。



兵庫県立国際高校のフィリピン・スタディツアー

2019年度 国際交流 事業計画

国	プロジェクト	実施場所	内容・意義【必要資金(円)】
インドネシア	アジア国際ネットワークセミナー	バリ島	1990年以来「貧困なき一つなるアジアを目指して」をモットーに開催。今年度は10月8～12日に、「アジアの教育からの貧困脱却と地域のリーダー育成」をテーマに話し合う【400万】
日本	アジア・ユースサミット(AYS)	大阪・奈良	「持続可能な地域づくり」に貢献するアジアの若者リーダー育成とネットワークづくりのために、アジア各国から若者が集まる合宿型の国際会議を開催【550万】
インド・フィリピン	ASI 地域開発コース支援	マニラ市内のアジア社会科学学院(ASI)	地域開発を専門に農村の社会課題を解決する次世代の人材を育成し、貧困なき国作りを行うために、インド1名・フィリピン1名を、社会科学専門大学院大学ASIの2カ月の地域開発コースへ派遣【40万】

2019年度 子ども 事業計画

国	提携団体	実施地域	内容・意義【必要資金(円)】
インド	SSH	タミルナードウ州	HIV/AIDSの直接・間接的な影響下にいる家族の生活の質を向上するための支援【21万】
	AFS-Nagpur	マハラシュトラ州	スラム街の教育センター（チャイルドアカデミー）の子どもの就学支援。子どもたちに学習会や食事支援【31万】
	BSVIA	カルナータカ州	日印友好学園コスモニケタンの子どもたちの学習環境整備のために、机やイスなどの学校備品を支援【170万】
	RUDYA	マハラシュトラ州	日印友好学園パダトラ小学校の生徒に必要な教科書、制服、教材、遊具を支援し学校環境を整備【47万】
ネパール	AFS-Nepal	バグマティ県	地震後の学校は応急処置的な仮設教室で再開していたが、その後設定された安全基準に則った本格的な校舎再建を支援【300万】
		ルンビニ県、バグマティ県	ピトゥリ基金による学校給食プログラムを広く普及。栄養状態が悪い地域の子どものための健全育成のため、給食提供と栄養指導【80万】
フィリピン	ASI	マニラ市	路上生活から強制退去となり、新たな地で暮らし始めた家族に対し、子どもと保護者の教育、栄養改善、職業訓練、収入確保を支援【26万】

2019年度 子ども 事業 アジア里親の会 計画

国	提携団体	実施地域	内容・意義【新規要支援里子数】
インド	RUDYA	マハラシュトラ州	少数民族の子が通う日印友好学園パダトラ小学校の運営と設備拡充を支援【45人】
	BSVIA	カルナータカ州	貧農の子どもに教育機会を与える日印友好学園コスモニケタンの運営支援【5人】
	SSH	タミルナードウ州	HIV/AIDS感染家庭や低収入家庭の子どもが就学できるよう、就学経費や学校の運営を支援【7人】
	AFS-Nagpur	マハラシュトラ州	スラム街の教育センターの子どもの就学支援。学習会実施や食事支援など生活支援【2人】
カンボジア	KAFS	タケオ州/コンボンチュナン州	経済的に不安定な家庭の子どもの教科書・文房具購入など就学支援や、学校の運営を支援【10人】
ネパール	AFS-Nepal / Yashasvi	第三州/第四州	地震被災地など経済的不安定な家庭の子どもの就学費支援と学校運営支援【10人】
バングラデシュ	BDP	ガジプール県/ジャマルプール県	農村の子どもの中等教育就学を支援、および学校運営支援【15人】
フィリピン	ASI	カビテ州/マニラ市	路上から新たな地に移住した子どもの教育支援と家族への教育・生活環境改善【2人】

罹災者支援事業



支援物資を手にするロヒンギャ難民の子ども＝マレーシア

ロヒンギャ難民に生活物資

2015年に起きたネパール中部地震被災地の復興と、その後の持続可能な地域づくりを目指し、生活支援・学校支援・飲料水支援をしました。また、根本的な水不足を解決するために、外務省の「平成30年度日本NGO連携無償資金協力支援事業」から資金供与を受け、揚水システム設置と農業基盤づくりを行う大規模な復興支援事業を始めました。457ヶ所に特集。

熊本地震について、前年度からしてきた熊本県益城町の仮設団地への支援は、仮設団地管理を他機関へと移行し、活動を終了しました。
ミャンマーから逃れて現在、マレーシア・ペナン州で難民生活を送っているロヒンギャ族に対して、生活物資な

どを支援しました。

インドネシア・ロンボク島地震支援については、被災地調査時に、現地提携団体HOSANNAにより、若干の生活物資を配布しました。本格的な支援は、インドネシア政府が示した支援条件が現地提携団体のキャパシティを超えていたため、断念しました。

サイクル・エイド事業

放置自転車を暮らしの足に活用

大阪府内の堺、八尾、泉佐野、大阪、泉大津、高石、東大阪各市の協力により自転車723台と車椅子2台の提供を受け、タイに350台、カンボジアに373台、計723台の自転車を、タイに2台の車椅子を贈りました。13ヶ所に詳報。

2019年度 サイクル・エイド 事業計画		
国	提携団体	内容・意義【必要資金(円)】
タイ	TAFS	大阪府内の放置自転車を再生し、最も必要とされる地域へ贈る【250万】
カンボジア	KAFS	

2019年度 罹災者支援 事業計画			
国	プロジェクト	実施地域	内容・意義【必要資金(円)】
ネパール	ネパール中部地震災害復興支援	シンドウパルチョーク郡	2015年の地震被災地の復興と持続可能な地域づくりを目指し、外務省「日本NGO連携無償資金協力」の資金供与を受け「安定的な農業地域を目指した水インフラ設置と農業生産向上の基盤作り」事業を実施し、地震後の安定した生活基盤を確保【5300万】
日本	東日本大震災被災者支援	宮城県名取市	災害の風化を防ぐと共に被災地復興支援のため、新居住地の環境づくりを目指した植林活動およびスタディツアーを実施し現地の人々との交流を深める【70万】

●…JAFS国際協力基金…●

「地球幸せ募金」貯金箱式募金	栄養失調に苦しむ子どもたちの栄養改善を目的とした給食基金に充てる。または、今年度プロジェクトのいずれかを支援する
「アジア井戸募金」募金箱設置	各家庭や店などに募金箱を設置し、井戸建設支援に充てる
「アジアフレンドシップ夢基金」募金	アジア18カ国の草の根の人々と共同で、「アジアフレンドシップ夢基金」を募り、アジアと世界のより困窮する人々への支援金とする

国内での普及啓発事業

国際協力PRとチャリティ活動

国内では2018年度も、広く一般の方が本会の活動に参加できるよう、

様々なチャリティ企画をしました。恒例のJAFSチャリティバザールは2回実施。3年目となったアジアンチャリティフェスティバルは、在関西の外国人とも交流する多文化共生チャリティイベントとして416名の参加がありました。各地区活動やプロジェクト支援グループでも、支援や広報のために「ぞうすいの会」や「ウォーカーソン」などのチャリティイベントや環境活動、チャリティコンサートなどを行いました。



西宮国際交流デーにチャリティ出店する西宮地区会

国際理解教育講座として、小学校、高校、大学や企業等のべ12カ所に対し国際理解に関して講義しました。毎月「ぞうすいの会」や地区活動で、アジアでのプロジェクトを報告しました。



地区世話人・活動協力スタッフ研修会

アジア家庭料理教室も4回開き、アジア文化の理解を促しました。インターンシップ生5名を受け入れ、国際協力活動と市民運動に関して研修しました。

本会と連携する18カ国と国内法人とを結び、マレーシア、インドネシアなどをテーマとして法人対象のグローバル人材育成セミナーを3回開きました。

社員クラブは4回開催し、ゲストの卓話を中心に参加者が交流しました。アジア市民大学を新たに開学し、アジアの国の文化理解に向け、専門家による講義を4回開きました。関西NGO協議会を始め各種関係団

体の役員を務めるなど、連携協力しています。関西最大の国際協力のお祭り「ワン・ワールド・フェスティバル」や全国最大の国際協力イベント「グローバルフェスタ」の運営にも貢献しています。
活動情報誌「アジアネット」を年4回発行し、事業報告や海外情報について広報しました。ホームページやフェイスブックなどを通じてイベント情報やニュースを随時発信しました。関連市民活動として、関西ナショナル・トラスト協会、日本を良くする会、グリーンベイOSAKAも活発に活動しました。

「土水」や緑化農業活動

35回を迎えた「土と水と緑の学校」は、159名が参加し和歌山県新宮市で5泊6日のプログラムを実施し、自然の中で子どもたちが交流しました。美山「土と水と緑の自然学校」は第7回となり、京都府南丹市美山町で自然体験および農村交流プログラムを開催しました。36名が参加しました。本会が提唱した国際グリーンスカウト活動として、大阪部会は和歌山県新宮市や京都府南丹市美山町で環境プログラムを開催し、吹田部会は毎月1回の例会と、川清掃活動、無人島キャンプを実施しました。寝屋川・枚方部会は、地域活動グループと共に緑化農業活動に参加しました。

活動に参加しました。

2019年度 社員総会報告

公益社団法人アジア協会アジア友の会第8回社員総会を下記の通り開催しました。定款に基づき萩尾会長が議長となり議事を進行しました。現社員数216名の内、出席社員数155名(内書面評決者及び評決委任者98名を含む)であり、過半数に達し、総会の成立を宣しました。

日時: 2019年6月8日(土) 15時～16時30分

会場: 大阪産業創造館 6階会議室

議案I: 決議事項

第1号議案「2018年度計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)、同附属明細書及び財産目録の承認」の件
議案II: 報告事項

- ① 2018年度事業報告並びに同附属明細書について
- ② 2019年度事業計画について
- ③ 2019年度収支予算書について

上記の決議事項に関しては、まず出口監事より、決算書類や事業報告などが不正なく法令や定款に従ったものであるとの監査報告がありました。引き続き財務担当の上野理事より「2018年度計算書類(貸借対照表及び正

味財産増減計算書)、同附属明細書及び財産目録」について詳細な報告がありましたが、特に質問や意見は無く、すべて承認されました。

報告事項①については村上事務局長および各事業担当理事より報告があり、特に質問や意見は出ませんでした。②の事業計画を村上事務局長が報告し、今年度の基本的な考え方として、すべての活動・事業・運営において新しい時代への過渡期として捉え、それぞれの必要に応じて継続・見直し・改善を図っていくことが説明されました。開発支援各事業の継続のほか、国際交流事業においては国際ネットワークの強化拡大を図り、生活支援事業においてはネパール地震支援を継続し、国内では本会活動への協力者・支援者の輪を広げる計画を報告しました。③は上野理事より収支予算165,000,000円を会費・寄付・募金により集めるとの説明がありました。

続いて海外プロジェクト報告会を開催し、本会スタッフ横山より、インドの学校支援やカンボジアでの井戸支援について報告しました。

収支決算書 (2018年4月1日～2019年3月31日)

[1] 収入の部 (単位円) [2] 支出の部 (単位円)

科目	予算額	決算額	差異	科目	予算額	決算額	差異
1. 会費収入	24,300,000	19,477,300	4,822,700	1. 事業費	85,800,000	119,305,055	△33,505,055
(1) 社員会費収入	5,520,000	4,940,000	580,000	(1) 水(井戸・飲料水供給)	16,980,000	26,975,622	△9,995,622
(2) 維持会費収入	9,600,000	7,302,300	2,297,700	(2) 子ども(里親・教育・学校建設)	19,240,000	16,758,096	2,481,904
(3) 賛助会費収入	4,800,000	4,032,000	768,000	(3) 貧困(生活自立・職業訓練)	22,910,000	36,553,702	△13,643,702
(4) 学生会費収入	0	0	0	(4) 環境(GS活動・植林・バイオガス)	4,670,000	7,176,555	△2,506,555
(5) 団体会費収入	300,000	200,000	100,000	(5) サイクル・エイド事業	2,500,000	3,098,737	△598,737
(6) 法人賛助会費収入	4,000,000	3,000,000	1,000,000	(6) ネットワーク推進事業	5,000,000	9,210,289	△4,210,289
(7) ジュニア会費収入	80,000	3,000	77,000	(7) 人材交流・育成事業	2,500,000	1,448,364	1,051,636
2. 募金・寄付金収入	70,620,000	108,945,619	△38,325,619	(8) 地域広報活動事業	8,400,000	13,334,002	△4,934,002
3. 負担金収入	13,990,000	12,538,187	1,451,813	(9) 環境保全・啓発教育事業(土水)	3,600,000	4,749,688	△1,149,688
4. 受取利息	5,000	2,213	2,787	2. 災害特別助成金支出			
5. 雑収入	195,000	45,339	149,661	(1) 災害等罹災者支援事業	500,000	1,153,084	△653,084
6. 災害特別助成金収入	10,890,000	6,873,126	4,016,874	(2) フィリピン災害復興支援事業	0	406,301	△406,301
当期収入合計A	120,000,000	147,881,784	△27,881,784	(3) ネパール地震復興支援事業	8,000,000	2,135,985	5,864,015
前期繰越収支差額	2,940,513	2,940,513	0	(4) 熊本地震被災者支援事業	4,100,000	6,635,065	△2,535,065
収入合計C	122,940,513	150,822,297	△27,881,784	3. 管理費	21,470,000	18,664,982	2,805,018
				4. 退職給付引当資産取得支出	80,000	285,000	△205,000
				5. ソフトウェア購入支出	0	0	0
				6. 基本財産振替支出	0	0	0
				7. 予備調整費	0	0	0
				当期支出合計B	119,950,000	148,585,472	△28,635,472
				当期収支差額A-B	50,000	△703,688	753,688
				次期繰越収支差額C-B	2,990,513	2,236,825	753,688



各地の会員活動

地区活動は、関西を主に、全国11のエリアごとに地区世話人を中心として、本会の活動と理念の普及と、アジアとの「理解と協力と連帯」の輪を広げることが目的に、様々な活動を行いました。チャリティ活動としてアジア支援にもつながりました。

◆第1エリア(尼崎・池田・吹田・高槻・豊中・箕面)
エリア全体…「宝塚中山寺・子供フェスティバル」、「豊中七夕まつり」チャリティ出店。
○池田地区…アジアをテーマに勉強会を開催。「中国」、「フィリピン」
○高槻・島本地区…「初夏の蛍鑑賞と美人の湯の夕べ」、「ネパールの歌姫による音楽&チャイ」、「秋の摂津峡アコーステックコンサート」を開催しアジアの子ども支援資金を積み立て。高槻地区が中心となって「JAFS新年会」開催II写真。
◆第2エリア(門真・四条畷・寝屋川・枚方・守口)
エリア全体…「JAFS北河内緑とふれあう会(農作業)」を毎月開催。
○守口地区…「だんじり祭り」、「橋波商店街FMチャリティ」など、チャリティイベントに参加。
○枚方地区…「枚方ティサロン」、「穂谷川ウォーカーソン」など地域密着のイベントを開催。
○寝屋川地区…「ぞうすいの会ティサロン」開催。地域行事にチャリティ参加。バイオガス2基寄贈。
◆第3エリア(なにわ東・西・南・北)
○なにわ西地区…「まいど!大阪おもしろツアー」、「関西ほのぼのツアー」を開催。インドの里親・女性自立

支援へのチャリティ。
○なにわ南地区…「デザイン寿司十創作寿司」、「加賀屋新田(高灯籠ウォーク)開催。
◆第4エリア(河内長野・藤井寺・松原・美原・羽曳野・大阪狭山・河南町・富田林)
○河内長野・大阪狭山地区…月例会(卓話)を開催。「ボランティア・市民活動フェスティバル」参加。
○南河内・松原地区…「異文化交流パーティー」開催。各中学校区のフェスタへも参加。海外プロジェクトへ寄付。
○富田林地区…「パーベキュー」、「狭山池と博物館見学」開催。
◆第5エリア(宇治・京都・野洲八幡)
「アジアについて知る勉強会」(フィリピン・インド)の開催。バザールカフェフェスタへの参加。
◆第6エリア(三田・西宮・神戸・姫路・芦屋)
○西宮地区…「国際交流デー」参加。
○芦屋・神戸地区…チャリティバザー「春咲緑日」、「秋空緑日」に参加。
◆第7エリア(生駒・奈良・東大阪他)
○生駒地区…「BBQと蛸を愛でる会」、「生駒どんどこ祭り」参加。「お竹送りウォーク&ぞうすいの会」、「チャリティライブ生駒」開催。インドの子ども教育を支援。
◆第8エリア(高石・堺)
「ネパール支援ギターチャリティコンサート」、「家原寺新年街頭募金」、「新春チャリティ小品展」開催。

◆第9・10・11エリア(広島・関東・愛知)
○関東地区…インド・パタラ小学校の子ども就学支援のため「銀座ウォーカーソン」、「チェロコンサート」開催。「グローバルフェスタ」参加。
プロジェクト支援グループ
●ぞうすいの会…月1回、スタッフやボランティアよりプロジェクト報告を聞きながら雑炊を食べ、アジアへの水支援資金を積み立て。
●アジア井戸ばたサロン…和紙などの手作り小物の頒布により里親の会に支援。
●スリランカ・サルボダヤ友の会…現地提携団体「サルボダヤ」の活動支援のためにバザーなどを行い、農村開発や井戸1基の建設を支援。
●日印友好学園支援会…生徒の学力格差緩和のためのサマーコースの導入など、コスモニケタン学園の運営支援。
●JAFSネパールへのかけ橋…月例会を行い各種バザーへの参加などを通じて得た資金により、ネパールの子どもの環境教育のための教材作成や老朽化した校舎の改修。
●JAFS歌声サロン…歌を歌うチャリティ活動を毎月行うことで得た資金を、インドの子ども教育支援やアジアフレンドシップ基金へ寄付。



国内外の様々なイベントをHPに載せています。記事についてのお問い合わせはJAFSへ裏表紙にアドレス、連絡先



チャリティでアジアの音楽と食の融合だあ

第7エリア(奈良県・和歌山県・三重県・東大阪市・八尾市)主催の第4回チャリティーライブ生駒(アジアの音楽と食の融合だあ)が3月3日、奈良県生駒市セイセイビル内コミュニティセンターで催されました。アジアフレンドシップ夢基金、インドのチャイルドアカデミー支援のチャリティです。舞台スタッフとして参加した私は、朝からバタバタでした。10時、リハール開始。第1回からお手伝いをしてきました。今回は初の舞台出演。また、初の女性MC2人、初の自前音響と照明で、緊張感もうなぎ登り。屋台は沖縄料理、アジア各地の料理、カレーやおでん、泡盛、ビール、ワイン、お茶とお菓子。楽しみ！11時半、屋台のセッティングも完了し、いよいよ開始！お琴、バレエ、バンド、フラメンコ、大正琴、ベリダン、そしてゲストのチンイさんの二胡演奏、MIKAさんの歌、シルクロードローランの歌と踊り。他にも盛り沢山の舞台でした。写真。間に『アジアの人々の今』というビデオを上映し、小紫生駒市長のごあいさつ。走り回って、20分押しで舞台終了しました。気が付けば、屋台に行く暇もありませんでした。残念。でも、とても充実した1日でした。(JAFS会員 清水弘子)

子さんから参加者へ、JAFSについての紹介がありました。その後は、天正寺住職の佐々木瑩堂師の指導により、30分程の坐禅をくりかえしました。食事は女性の参加者によっていただいた鍋が中心。参加者間で交流を深めつつ、楽しく、おいしくいただきました。坐禅とJAFSという、少し不思議な取り合わせではありませんが、広報

インドへ井戸贈るだんじり出店

第13回守口市だんじり祭りが5月12日、大阪府の京阪守口市駅前で開催さ



活動のひとつとしては、それだからこそ効果があるのかもしれませんが。考えてみれば、坐禅も発祥はインドだし、そういう意味ではインドの精神文化への理解を深めるとか、坐禅からインド、さらには国際協力、JAFSへと興味を広げてくださる方もいらっしゃるのかな、という気がします。こんな関わりもありかも、と思いました。(JAFS会員 林昭宏)

れた。同市で一番大きなイベント。11日の前夜祭から天候に恵まれ、大勢が来場した。私はJAFSのお手伝いを2日間させていただいた。

2日間にわたり、守口市内8地区のだんじりが勇壮なパフォーマンスを繰り広げた。若い世代の男女やだんじりが生きがいのおじ様たちが、地車を引いて、踊って、競演した。来場者は、鳴り物や地車囃子を楽しみながら、迫力に魅了されていた。

JAFSは当て物ブースとフードブースの2カ所のテントで出店した。当て物ブースは、2日とも子どもたちがあふれていた。私はフードブース写真で、お昆布とカツオから出汁を取った本格的なうどんを提供した。小さなお子たちを連れた家族、カップル、友人同士などが楽しむ姿をテン



スリランカ人が住んで見た日本

2月23日、JAFS事務所で17名が参加してスリランカ講座を開催した。サリーを着たバーギヤ樋口さん写真が「私が学んだスリランカと日本」を次のように語った。

1984年ミスユニバース世界大会のスリランカ代表。生まれて初めての水着を着て、興奮し夢のようだった。

その後、東京のスリランカ大使館の招きで来日。日本が好きになり、大阪の日本語学校で日本語を学んだ。梅田地下街で迷い子になったが、50代くらいの男性に英語が通じなかったが助けてもらった。日本人は親切だ。

1泊の神鍋スキーバスツアーに参加し、初めて雪を見たときの感動は忘れられない。雪の中を転んで、走り回った。1988年、伊丹空港の会社に就職。同僚がアジアの国に旅行し、土産

トの中から眺めていると、心が温かくなってきた。周りのスタッフはアジア発展のために協力し合っている。頭が下がる思いであった。とても貴重な体験をさせていただいたことに感謝している。(JAFS会員 澤邊孝子) ※インドへ井戸を贈るためのJAFS 40周年記念チャリティ事業です。

街の子どもが農山村体験

第7回美山「土と水と緑の自然学校」(美山土水)が、京都府南丹市美



を値札通りに買ったという。土産は割高に付けているが日本人は正直だ。勤務先の会社で夫と出会い、結婚した。現在いくつかの小学校で派遣の英語教師をしている。授業中に席に着かず、歩き回ったりする生徒がいるが、先生は叱らない。スリランカではこんなことは見られない。先生は厳しく、生徒は先生を尊敬する。でも私は日本が大好きだ。日本人は時間を正確に守る。電車は時間通りに来る。(スリランカサルボダ友の会 船戸康夫)

坐禅してアジアを思う



3月16・17日、大阪市天王寺区の臨濟宗寺院天正寺とJAFS旅人共催の1泊2日坐禅会写真に参加しました。始めに、JAFSスタッフ有山京

山町で3月24・27日の3泊4日で開かれました。主に大阪・京都からの子どもたち20名を迎え、一昨年から引き続き、和歌山県新宮市からも参加者がありました。今年は天候にも恵まれ、「山笑う」美山土水となりました。

参加者は、新3年生となる子どもたちも多く、2日目の白尾山登山や、初の試みとなった、地元のご家庭での「もらい風呂」を少し心配していましたが、それぞれが、ボランティアリーダーのお兄ちゃんお姉ちゃんのサポートを受けて山に登りました。お風呂では、きちんとしたあいさつや使いぶりを、各家庭で褒めていただきました。美山土水の大きなテーマのひとつは「農山村と都市間での交流」です。地元美山大内地区の皆さんも手慣れたおり、担当プログラムではしっかりと先生役をやってください、担当外でもたくさんサポートしていただきました。ただ、地元美山の子どもたちになかなか参加してもらえないのは、課題の一つにもなっています。

美山土水以外にも「農山村と都市間での交流」プログラムを実施しています。5月には田植え、7月には夏野菜の収穫&川遊び、9月には稲刈りと交流、2月には雪祭りを、毎年開催しています。そんな中で、美山土水にも、美山から新たな参加者に来ていただけることを願っています。

(JAFSスタッフ 山竹継男)

新入会員ご紹介

ご入会感謝申し上げます。(敬称略・50音順)

2019年3月1日～5月31日

●社員会員
藤原伊津子

●維持会員
片岡真理/菊地文子/中川寛子/本庄紀子

●賛助会員
浅野敏弘/上ノ原龍子

●里親会員
外岡ラズムシヤズ/畠平恵子

会費納入者、寄付・物品協力者

温かいご支援ありがとうございます。(敬称略・50音順)

2019年3月1日～5月31日

なお夏季・冬季募金へご協力くださった方につきましては、1年後の夏季・冬季に別紙で報告させていただきます。

●社員会費

青木美千代/秋山賀子/浅野弘/安達英行/熱田親憲/熱田典子/天野由紀代/幾谷真規子/池田邦子/池田悦子/池本修/石田雅昭/石原基義/上野孝一/宇野稔/大谷タカコ/大野嘉宏/大原映子/大前幸正/岡本厚/岡本佳子/沖田文明/奥田哲夫/小澤勇/越智賢三/柿島裕/笠谷正博/加藤喜代子/栢下壽/川合千代子/川上知子/川崎壽/川端勝/北田嘉信/北谷俊貴/北野光三/北山典彦/金昌則/草加節男/桑村壽子/古賀旭/古賀範久/小林久仁子/櫻井紘哉/佐々木実/佐藤寛子/佐藤道代/佐藤清昭/佐藤理香/更家充/塩尻昭江/篠原勝弘/芝野照久/島井宏子/下山浩二/白井春夫/杉林則子/平興隆/高垣靖/田中壽美子/田中政直/谷岡康男/千代博子/辻川楠美/土屋菊男/藤間孝子/藤間剛/東松広岳/徳永誠/富田和

政/富松英二/豊崎登/中井淳夫/中内一揚/中島和子/中西洋/中村敏子/中村日遊/二階堂美智子/西川京子/西田貞之/野木義弘/野口明英/萩尾千里/橋口高明/橋本隆/春名康範/韓礼元/東幹男/平井三千子/平岡宏一/福川肅/藤本加代子/藤原伊津子/藤原幸四郎/藤原正昭/細谷詩子/法花敏郎/本間一将/松原直弘/松本静枝/宮野谷篤/宮本照住/三渡真由美/虫明慧悟/村上和範/村上公彦/村上清子/毛利吉男/森本榮三/森脇寛/安田信人/八束浩一/柳井一朗/山崎道治/山崎桃/山下泰之/山田和広/山田英男/山田穂積/横井恰子/横山浩平/吉岡健一/吉田俊朗/米田徳子/若元裕美/若元良嗣/渡部高明

●維持会費

浅尾みちる/浅野孝子/浅野照子/安

/ハリスモハメッド/東田弘/東谷香保子/藤田みく/飛田雄一/平岡三保子/平川哲也/平野千晴/福岡名津子/藤本千恵/藤原昭子/藤原勝徳/藤原真由子/船松志津子/堀田紀美子/堀富子/本多隆久/本間耕一/前田幸利/牧比呂美/真崎なみ子/松井和美/松浦有理子/松江宏/照子/松尾慶治/松田高志/松長朋子/丸井和子/三上敦史/水野恵理子/御手洗美/箕浦明子/宮崎誠也/村口ミヨ子/森陽子/森岡幸子/森田浩/森永信子/八木原由希子/山口タカ子/山下良一/山田伸枝/山根英浩/山野和子/山本征八郎/山本隆/山本七々子/山本晴子/湯浅公太/湯浅洋子/横井厚人/横井文/横山里美/横山正子/吉川英昭/吉用トモ子/義本奈々/愿山紀代/若林美幸/和田紗代/和田みな子/綿田元松/渡辺彩智子/渡辺雪子

●ジュニア会費
徳永健/徳永優

●団体会費
五十鈴ケアセンター/日本を良くする会

●法人賛助会費

(学)エール学園/NTT労働組合関西総支部/関西電力労働組合京都地区本部/㈱ジャパンボトラス/㈱クローアップ/米田明正/㈱宝屋/㈱ツールオカフジ/日広機設/㈱ビケンテクノ/㈱フラットエージェンシー/山田不動産

●里親会費

石原歩/伊藤誠/岩田一則/上田慎子/上野未惟/大畑直之/大水光美/小笠原和久/奥野憲一/河田篤子/川端美智子/北原祐司/絹田悦子/木下敏子/木村依江/草苺良平/毛塚勝貴/小西孝彦/小林久仁子/斉藤渡/佐藤

潤子/佐藤正明/下山いつみ/荘司晃一/園田道子/平真知子/多嶋田浩一/巽正憲/田中愛子/田中修/田中和子/田中貴美子/田中達也/谷総安雄/田村章子/筒井利弘/坪内廣次/出来成人/徳永昌彦/外岡ラズムシヤズ/中島和子/中島綾/中村操/二階堂美智子/畠山房子/畠平恵子/橋平葉子/林茂雄/日生下卓/平川哲也/福田忠明/藤原勝徳/古橋朋子/堀田飛鳥/前田泰子/松原直弘/三里健一/村上聡代/森利明/森川恵代/森本秋子/山岡輝清/山口真理子/山根英浩/山本由起子/山脇哲/横井厚人/渡部司

●一般寄付

青木洋介/熱田親憲/伊奈徹/上野孝一/大島久子/大淵美輝子/大山行雄/岡三証券株式会社/岡藤茂夫/隠岐教会/沖田文明/木下良子/葛谷友子/桑村壽子/コスモス会/齋藤正健/酒井聖/櫻井紘哉/佐藤理香/篠原勝弘/島津博義/シモノサヤカ/認定子ども園すみれ幼稚園/ソフトバンク/ながる募金/田中守/土屋菊男/富松英二/ナモナキピリオオナラ/難宗寺芳滝真慶/西森幸子/萩尾千里/はりま平安教会/藤田知子/藤原正昭/法花敏郎/まきたまさこ/眞砂哲志/松本静枝/宮崎富士雄/村上公彦/森本榮三/山澤寛子/山本宏昭/吉田俊朗/ReShoKANAU/雲松寺/匿名

●井戸指定寄付

一般財団法人H2Oサンタ/蛭名健仁+加奈子

●井戸積立

JAFSぞうすいの会/西宮友の会

●井戸建設支援

カンボジア/㈱元商会/花巻北ロータリークラブ

達淳子/熱田昭子/熱田貴子/阿部有紀/天野貞男/天野さやか/天野日出男/雨森清忠/荒川惣平/有本幹子/粟井健徳/石原京子/泉原真由美/市來賜代/市來千代子/市坪利恵子/伊津野修/伊藤勝/伊藤亮三/因幡明洋/井上松月/井上順子/今井利子/今井康郎/今堀京子/岩城良子/上田高久/上田律子/上野未惟/植村龍子/梅田祥仁/浦野健二/海野良三/江守猛/大島一晃/太田真知子/大谷伊津枝/大塚哲男/大槻昌寛/大成孝子/大橋一雄/大平さゆり/大脇君義/岡野きぬ子/岡本修/岡本朋子/小川富/小川誠/沖早知子/置田善三/興津謙太郎/荻野晋也/尾谷尚子/落合朋子/小川真舞/加地美智子/梶谷阿久里/片岡真理/片山和子/片山直也/片山康儀/勝見文雄/金井英夫/金子澄子/金丸幸子/釜下昭子/上岡忠人/加茂清次/川上知輝/川上礼子/川北初美/河田篤子/菊地文子/菊池真理子/北口正敏/北田雅人/北村晏一/吉相幸枝/木野由弘/木原みき/木村依江/清岡恵美子/楠山容子/久保田久人/熊本千恵子/栗山拓/黒木隼彦/小池美和子/小出裕司/糺矢美智/甲田一幸/幸山やえみ/小倉正和/小島俊之/古住満寿子/小谷のり子/小西尚子/小林英子/小林真澄/小松一子/小森茂之/小山一雄/近藤恵/齋藤松江/齊藤透/齊藤仁/斎藤美美子/斉藤渡/坂口浩子/嵯峨山節子/佐藤千久/佐藤潤子/佐藤寛範/佐藤泰範/佐藤善範/澤田安子/實まり子/芝崎未廣/嶋元純夫/下野博/正法地圭/正法地浩/調洋子/末永雅典/須賀浩/菅原直樹/杉江久男/杉原貴/鈴木栄次/鈴木誠也/須田勇/住友藍/瀬川真平/関口淳/曾和明/平善行/田岡麗/高橋淨祐/高畑政登/田口哲朗/竹田陽子/竹中一章/竹中由紀子/武生伸子/田尻尚之/立石小夜子/田中和子/谷正一/谷口昌嘉/谷畑

孝/谷丸八郎/種村政宏/玉置和子/田村章子/辻賢二/辻正浩/津田洋子/坪内廣次/土井利夫/土居正明/堂浦郷子/遠田智代/徳永正和/富松孝司/豊田祐輔/寅田和代/内藤恵子/永井博記/長江佐和/中岡末子/中川寛子/中島小夜子/中嶋典子/中島三栄子/中島就子/中島裕子/中島綾/中須賀敏子/中筋光子/中谷華菜/中西彰夫/中西伸子/中西正喜/長野清文/中橋政美/中南有加里/中村真司/中村暢秀/中村正憲/中森隆枝/南里孝美/西優子/西垣光代/西川龍夫/西田信行/西田恭子/西野恵子/西林昌樹/西山あかり/萩原敏/橋本喜代子/橋本喜代美/橋本元氣/長谷川雅子/秦道代/林佐妃子/林茂雄/原田和幸/日生下卓/東久保勝彦/久光定雄/日野恵美子/日野真澄/平川輝子/平見美智子/廣地洋太/福井えり/福島朋子/福本義克/房本晃/藤大慶/藤井いずみ/藤井順子/藤井りか/藤川孝夫/藤木一世/藤木茂利/藤田百合子/富士原栄子/藤原龍雄/船戸尚子/古川光昭/古田万紀子/古田由紀/堀正巳/堀内弘嗣/堀口富子/堀田飛鳥/本郷仁/本庄紀子/本多操/前澤良子/正道幹子/真下浩一/榎田実/松村祐介/松本節子/松本典子/松山千恵/マツラジャンマン/的場義恵/三木裕則/三國谷勝寛/光畑麻美/三林寿子/宮田安紀子/宮田幹/宮野慧子/宗石和久/宗京敦/村田恭仁子/村本康治/森利明/森木俊行/森村文則/八尾真吾/八木正人/Yoko Swabano/安留治/八頭司和子/柳原富美子/矢吹貞子/山内幸太/山岡輝清/山口香世子/山口幸子/山口文枝/山崎晶子/山下登世子/山下善照/山田孝彦/山部檀/山本勝彦/山本真司/山本哲司/山本幸子/横井明子/吉岡照仁/吉田伊吹/饒平名知幸/鋳坂総子/雲松寺/和田早苗/和田多喜子/和田達生/渡邊喜久次

●賛助会費
浅井聡子/朝倉結喜/浅野敏弘/荒川奈秀子/荒瀬定子/有井慶子/池嶋伸晃/池住美樹/池田倫子/石田尚美/泉谷博幸/一鷹要市/市村睦子/一色由子/稲垣章子/井上修二/晶子/井上康/岩切康宏/岩崎裕保/岩下将人/岩田一/上田秀子/上ノ原龍子/上畑育美/植村友恵/梅川秀和/漆原嘉孝/江守和子/大谷まり子/大野早百合/大橋昌子/お母さんの地球学校/奥田文子/奥野憲一/奥山宏靖/鬼塚友子/柿島頼紀/籠谷啓史/鍛冶良祐/加芝ナミ子/梶原英一/粕谷早苗/粕谷香代子/川端美智子/川良幸子/上林愛子/上林喜久郎/北岡幸子/北川久躬子/北村英夫/北村光弘/喜多村裕香/狐塚真美子/絹田悦子/木下マキ子/木原民世/木村和夫/栗山聡子/桑原由紀子/小泉和/小林理恵/齋藤史子/斉藤理美/坂上知子/佐々寿子/佐々靖男/澤田薫/清水直子/清水利香/下村博/下山いつみ/シュレスタナニマヤ/庄司野宇三郎/新羅和子/杉田多美子/杉本みゆき/外林公江/平真知子/高木幸子/高橋理佐子/高山純一/田口吉三/高穂久/竹井智子/竹中晋/竹中敏恵/武部恵子/田中愛子/田中司孝/田中敏弥/谷正康/谷奥恵/谷総安雄/谷口惺/谷田節子/田伏ハルエ/クンバルカイラーシユ/辻貴文/辻久/辻のどか/辻本嘉助/津田宏久/都筑信美/壺井利一/出来成人/東代清隆/徳永昌彦/外村茂一/外山和美/内藤健一/内藤肇/内藤雅貴/中島慎介/永谷恵子/中谷太一/中谷吉弘/中西加那子/中西邦夫/中野鉄馬/長浜真美/中村夏代/中村操/中村弓絵/成山邦子/西浦暢子/西林文/西原茂/野上麻理/野口須美子/野島哲也/野村水香/橋本敦子/畠山常夫/花房逸子/花光智香子/塙平葉子/浜田春樹/濱田光江/早崎鉄也/早瀬和人/原のり子

○スリランカ
(株)クレコスにこにこ倶楽部/スリランカ・サルボダヤ友の会/富永信明/南ファンシープランニング

○ネパール

日本サウナ熱波協会

○ハングラデシユ

(株)元商会

○フィリピン

大阪市女性国際交流グループ本庄紀子

●アジア・サイクル・エイド寄付
岡本佳子/サイクルエイド支援会

●アジア・ネットワーク奨学会費
上野孝一/岡本圭司/古賀旭/中島和子/藤原正昭/村上公彦

●アジア・フレンドシップ夢基金
JAFS第7エリア

●アジア・ユースサミット寄付
アジアユースサミット実行委員会/大阪府立佐野高等学校/小柳二郎

●アジア・ネットワークセミナー寄付
Daniel Avolat

●アジア・子ども支援寄付
宇治教会/(株)テールクロス/横山瞭一

●スリランカ・サルボダヤ支援寄付
安藤幹雄/スリランカ・サルボダヤ友の会/高岸弥生/渡辺治彦

●チャイルドアカデミー指定寄付
JAFS京都地区会/JAFS第7エリア/JAFS旅人

●ネパール・バイオカス寄付
JAFS履屋川地区/JAFS松原

●ネパール・ピトゥリ支援会費
小川幸子/倉光和之/小松朱美/前田美津代/前田豊/宮本博幸/宮本幸明

●ネパール・地域医療支援
大谷タカコ

●ネパール子ども夢・基金
鎌田勝江

●ネパール地震被災者支援寄付
元橋亮治/饒平名知幸

●フィリピン指定寄付
今井利子/木野友義/木下四朗/JAFS京都地区会/スナックマンゴ/マングローブ参加者会/村田治

●地球幸せ募金
小代利子

●東日本大震災復興支援寄付
小野寺知子

●補助金・サイクル・エイド指定
公益財団法人JKKA

●助成金・ネパール環境指定
(財)そなアジア・オセアニア財団

●物品・日用品・食料品等寄贈
青木加代子/天野澄子/飯嶋朝子/石川富子/井場弥生/今井利子/乾照子/宇治教会/梅原典子/奥田知子/小原純子/鍛冶トミ子/加藤義幸/JAFS京都地区/九鬼元義/葛谷友子/国枝弘敬/昆由佳/近藤朋子/澤智子/設楽宏幸/正法地浩/須賀浩/杉野佳代/Dogasグループ/小さな灯/運動/田川久美/高橋美也子/竹内伸次/東條保子/東代清隆/戸川美紀子/中西豊次/中西真佐子/中村弓絵/中元佐和子/根津千枝子/長谷川千衣/花房逸子/濱田圭子/(公財)パブリックリソース/東谷紀代子/廣瀬頼子/藤井牧人/前田泰子/松崎真理/三浦邦子/三浦志帆/三重野哲/南光子/宮崎禮子/宮里和代/武庫川女子大学附属高校/山中紀代子/吉川フミエ/饒平名知幸

● 中西産業株式会社

人とのつながりを大切に「美と健康」をお届け



昭和2（1927）年に凍こんにやくの製造販売を始め「玉乃肌」「つやの玉」を提供しています。今年で創業92年。創業以来『美と健康』をテーマに化粧品・化粧雑貨・衛生用品・健康食品の研究開発に取り組んでいます。
お客様より長年ご愛顧頂き、お蔭様で健康食品においては、多くの感謝のお手紙を頂いております。人生百年と言われる時代、皆様が毎日元気で若々しく過ごせるためのサポートを続けていきます。平成26年に手工芸品の製造を目的にベトナムに工場を設立し、日本の伝統と技術を伝え、現地の雇用や人材育成に貢献しています。昨今の人件費の高騰と人手不足に対処すべく、手先が器用で若い人材が活躍しています。OEMブランドによる受託加工も行っています。今後も「美と健康」を通じて世界へ視野を広げ、幅広い活動に挑戦いたします。

大阪市住吉区南住吉
2-23-29
☎ 06-6609-0555
代表取締役：中西豊次

新・The 社会貢献

企業や労働組合、各種団体は、それぞれの理念に基づいて活動していますが、いろいろな形で社会の役に立ちたいという気持ちは私たちと同じです。アジア協会アジア友の会の理念にご賛同、ご協力くださっている法人会員を紹介します。

● 大阪西ワイズメンズクラブ

YMCAの活動支え愛と奉仕をアジアに実践



ワイズメンズクラブは1922年にアメリカで誕生以来、現在世界で1400を超えるクラブ、2万人を超える会員を擁する国際奉仕団体です。日本でも28年以來、愛と奉仕の実践をモットーに各地にクラブがあり、YMCAの社会活動を支える一方、毎月例会や国際交流を通じて人的成長を図っています。

大阪西クラブは86年に設立され、メンバーは18名。シンガポールや台湾、国内の4クラブと兄弟関係にあり、活発な親交により相互研鑽を進めています。特に当クラブはカシオの学校建設や台湾での植樹など国際協力を積極的に進めていることから2年前にJAFSの団体会員になりました。熱田副事務局長に例

大阪市西区土佐堀1-5-6
大阪YMCA
☎ 06-6441-0894
会長：吉村周平

会で講話を頂いたり、里親の会にも入会させて頂くなど関係を深めています。今後ますますアジアとの友好関係を深めていきたいと願っています。

● 環境コラム

● 捨てないで食べるエコ

コンビニで、消費期限の迫った食品の実質値引き販売が始まることになりましたね。ご存知のようにスーパーでは当たり前でしたが、これまでコンビニでは値引きご法度で廃棄処分でした。

まだ食べられるのに廃棄される「食品ロス」。日本では年間640万tにのぼり、世界の食糧援助量の2倍です。その6割が販売店や生産者など提供側から、4割が家庭など消費側から出ています。販売店などでの廃棄削減とともに、家庭でも買いすぎや食べ忘れないように気をつけたいといけませんね。私たちの目の前で出るロスを、飢餓に苦しむ世界の人々に手渡せれば、その人たちのお腹を満たすことができますが、それは無理なので、食料の不平等な配分を思うと申し訳ない気持ちになります。作る際の資源・エネルギー・費用も無駄になり、掛けられた手間や思いに対しても申し訳なく、もったいないことです。廃棄にもエネルギー・費用・手間がかかりますから、環境的にも経済的にも負荷が2倍かかります。ロスを出さないよう地道に努め続けければ、やがて消費に対する流通量も適正になり、食料の不足する人に回っていくようになるかもしれません。

また、ロスを含めた日本国内の年間食品廃棄量約2,800万t。消費量全体の3割に当たります。

食料自給率が4割しかない日本。廃棄しなければ食料自給率が1割はアップするでしょう。足りていないのに捨てている。矛盾した話ですね。

ご存知の通り、賞味期限を過ぎても安全性も味も急には変わりません。消費期限も過ぎたら突然腐るわけでもないので、自分の嗅覚味覚で判断してはいかがでしょう。けっこう大丈夫と思います。

他に私が気をつけている一例は、料理の際に人参や大根の皮は剥きません。人参は出荷前の洗浄で皮が剥けるので、店頭品にはすでに皮は無いのです。さらに剥くと、カロテンが多い皮下の部分捨てているのです。大根は剥いた皮のエコ調理としてきんぴらなど紹介されますが、そもそも剥かないで皮も一緒に食べればいいではないかと思ひ立ちました。厚切りの煮物のように味の染み込みが大事なときは剥くこともありますが、その際は皮は千切りにして味噌汁に入れます。薄切りの料理やおろし大根などでは剥きません。また色々な煮物の残り汁は、翌日ほかの材料を入れて煮ます。残り汁をカレーに入れても案外コクが出ます。

私は料理が得意なわけではないので、他にも皆さんそれぞれがお持ちの食のエコを、このコラムを機に周りの方と情報交換したり実行してもらえればうれしいです。（JAFSスタッフ 川本 裕子）

作文コンテスト募集中

JAFS創立40周年事業の作文コンテストは、18～25歳の若者からの作品を7月20日まで募集中です。テーマは「アジアの未来—私の提言」、400字詰原稿用紙4枚。詳しくは4月発行のアジアネット137号、またはHP (<https://jafs.or.jp/jafs/40th-essaycontest>) をご覧ください。

編集後記

話 題の本『ホモ・デウス』を読みました。人類はハイテクの恩恵に浴して不老不死を目指す一握りの富裕層と、取り残される大多数の貧困層に二極化し、格差は途方もなく開くと予測しています。恐ろしい未来です。（黒）

最 近「意欲の貧困」という言葉が聞きました。貧困の克服はもちろん重要ですが、同時にもっと大事なものはより良くなりたいたと願う意欲ではないかと感じる昨今です。（裕）

プ ラステック問題が話題の今日この頃。コーヒー愛飲者の私はマイ水筒に入れて持ち歩いています。一方、夫はペットボトル利用者でしたが休日には水筒を購入へ。小さいことも「継続は力なり」で地球にやさしいことを増やしていきたいです。（典）

入会のご案内
皆さまが会員となつてサポートして下さることで、安定した活動計画ができます。継続した活動をしていくためにも、ご協力を願います。

- A. 維持会費 年額1口 12,000円 (月額1,000円)
 - B. 賛助会費 年額1口 6,000円 (月額600円=振込手数料含む)
 - C. ジュニア会費 (高校生まで) 年額1口 1,000円
 - D. 団体会費 年額1口 20,000円
 - E. 法人賛助会費 年額1口 50,000円
- 会費・寄付の振り込み先
郵便振込 00960-6-10835
三菱UFJ銀行中之島支店 普通1007011

手 前味噌ですがアジアネットもずいぶんよくなりました。今年度はHPでホットな情報を提供できるようがんばろうと思っています。日本はすぐ水が飲めるなんて夢みたい！とコスモニケタンの先生が仰っていました。（金）

プ ラステック問題に関心が高まってきました。ストロークが鼻に刺さった海亀のSNS動画を機に、132号環境コラムでもマイクログラスチックをテーマにしましたが、心打つ動画とSNSの力が急な好転を生みました。（川）



▲満々と水をたたえたメコン川の川面を、人とバイクや車を甲板いっばいに載せて走る渡し船。船が暮らしに欠かせない移動手段だ。2019年3月、カンボジア・プノンペン

◀表紙の写真 水道パイプライン工事の開始を聞き、拾ったペットボトルをたくさん手に水くみする親子。2019年3月、ネパール・シンドウパルチョーク郡インドラワティ村10地区。4〜7ページに特集記事



募金にご協力をお願いします

アジアの安全な飲料水がない地域で
貧困に苦しむ人たちを支援する活動に使われます

郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会

編集・発行：公益社団法人 アジア協会アジア友の会

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-2-14 肥後橋官報ビル5階

☎ 06-6444-0587 FAX 06-6444-0581

URL : <https://jafs.or.jp> E-mail : asia@jafs.or.jp

2019年7月 138号 発行人：萩尾千里 編集人：村上公彦

広報企画委員長：法花敏郎

編集アドバイザー：松本 督、黒沢雅善

編集スタッフ：熱田典子、岩崎準一、大本和子、柿島裕、

金井英夫、川本裕子

印刷製本：あさひ高速印刷株式会社



Accountability Self-Check 2012